

第二章 牛馬宿

第七條 牛馬宿ヲ營業セントスルモノハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ其事項ヲ變更スルトキ亦同シ

一 場所及敷地反別近隣地三十間以内ノ狀況

二 建物ノ構造仕様書及ヒ圖面

三 隔離室

四 落成期日

第八條 前條ノ構造落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出検査ヲ受クヘシ

第九條 營業者ハ改氏名移轉死亡廢業シタルトキ又ハ一ヶ月以上休業スルトキハ三日以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

第十條 廐舎ノ構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一 廐舎ハ他人ノ居宅又ハ道路ヲ距ル十間以上タルヘシ

二 廐舎ハ陰濕ノ地ヲ避クヘシ

三 廐舎ノ高サハ六尺以上ニシテ牛馬一頭ニ付巾四尺奥行六尺以上ノ區域ヲ畫シ前後各二尺以上ノ空地ヲ存スヘシ

四 廐舎内ニハ區域ヲ定メ隔離室ヲ設クヘシ

五 廐舎ハ不透透質ノ材料ヲ以テ地盤ヲ敷設シ尙ホ厚板ヲ張り適宜ノ勾配ヲ付スヘシ

六 尿樋ハ内外和藥ヲ施シタル土管又ハ不透透質ノ材料ヲ以テ舎外ニ流出スル様構造スヘシ

七 尿溜ハ内外ニ和藥ヲ施シタル甕又ハ不透透質ノ材料ヲ以テ舎外五尺以上ノ地ニ設ケ適宜ノ雨蓋ヲナシ其周圍ハ地盤ヨリ五寸以上ノ高サトナシ雨水ノ浸入ヲ防クヘシ

八 糞及不潔物溜ハ不透透質ノ材料ヲ以テ舎外五尺以上ノ地ニ設ケ適宜ノ雨蓋ヲナスヘシ

九 廐舎一區畫毎ニ番號ヲ付シ且逃逸ヲ防ク裝置ヲ設クヘシ

第十一條 牛馬羊豚ヲ宿泊セシメタルトキハ第一號書式ニ依リ翌日午前九時迄ニ所轄警察官署又ハ巡查派出所駐在所ニ届出ヘシ

第十二條 牛馬羊豚ハ凡テ宿舍外ニ宿泊セシムヘカラス

第十三條 廐舎内ハ常ニ乾燥清潔ヲ保チ毎日一回以上掃除ヲ怠ルヘカラス

第十四條 宿泊セシムル牛馬ハ一頭一區ト定メ且地方在來ノ家畜ト密接セシムヘカラス

羊豚積ハ一區數頭ヲ繋留スルモ差支ナシト雖モ牝牡ヲ混入スヘカラス但シ一歳以下ノ犢牛ハ此限リニアラス

第十五條 宿泊セシメタル家畜中病ニ罹リタルトキハ直ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ但シ此場合ニ於テハ同舎内ノ家畜ハ警察官ノ許可ヲ得スシテ猥リニ他ヘ移動セシムヘカラス

第十六條 獸疫ノ發生シタル宿舍ハ警察官ノ許可ヲ受クルニアラサレハ使用スヘカラス

第十七條 尿尿ノ浸染シタル汚瀝ノ廢棄ヲ使用スヘカラス且不潔物及ヒ尿尿溜ハ溢流セサル様掃除汲取ヲナスヘシ

第十八條 營業ノ目的ヲ以テ牛馬羊豚ヲ繫留飼養スル者モ凡テ本章ノ規定ヲ適用ス

第三章 家畜市場

第十九條 家畜市場ヲ開設セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ開設スル三日以前ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

- 一 市場諸般ニ對スル責任者ノ宿所氏名
 - 二 牛馬羊豚ノ種別
 - 三 市場ノ位置及周圍二丁以内ノ地形及ヒ道路交通ノ便否
 - 四 建物ノ構造任様書及ヒ圖面
 - 五 開設ノ期間或ハ開市ノ日時
 - 六 賣買取引方法
 - 七 市場ニ關スル規約アノハ其規約
- 第二十條 定時又ハ臨時市場ニテ閉市後ハ直ニ其假設建物ヲ撤去スヘシ但シ特ニ所轄警察官署ノ許可ヲ得タルモノハ此限リニアラス

第二十一條 市場ハ毎日一回以上掃除清潔ヲ保ツヘシ

第二十二條 市場ニハ免許獸醫ヲ招聘シ日常牛馬羊豚ノ健否及ヒ諸般ノ監督ヲナサシムヘシ

第二十三條 市場ニ於テ取引スル牛馬羊豚ニハ其產地番號種別牝牡毛色特徵年齡躰尺及ヒ惡癖疾病ノ有無ヲ詳記シ之ニ制限ヲ加ヘタル証明書ヲ付スヘシ

第二十四條 市場ニハ帳簿ヲ備ヘ前條ノ事項ヲ記入シ且賣買價格及ヒ交換讓與賣買人双方ノ宿所氏名ヲ明記シ置クヘシ

第二十五條 獸疫發生流行地方及ヒ其地方ヲ通過シテ市場ニ牛馬羊豚ヲ牽入ルヘカラス

第二十六條 獸疫市場附近ノ所ニ發生シタルトキハ市場開市ノ停止ヲ命スルコトアルヘシ此場合ニ於テ既ニ集合シタル牛馬羊豚ハ警察官ノ指揮ニ從ヒ移動セシムヘシ

第二十七條 市場ニハ式々所以上ノ隔離所ヲ設クヘシ

第四章 罰則

第二十八條 本則第四條第七條第八條第九條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條第十七條第十九條第二十條第二十一條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條ニ違背シタルモノハ五錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

附則

從來ノ營業者ニシテ引續キ營業ヲ爲サントスルモノハ明治三十二年九月三十日迄ニ本則ニ依リ

但公債証券ノ價格ハ府稅預ケ入ニ對スル擔保ノ價格ニ依ルモノトス

第二條 罹災救助基金ノ貯蓄高ハ罹災救助基金法第三條ノ制限額五拾萬圓ニ達スル迄又ハ之ニ達シタル後其ノ額ヲ下リタルトキハ府稅ヲ以テ之ヲ補充スルモノトス

第三條 罹災救助基金管理ニ關スル費用ハ府費ヨリ支出スルモノトス

第二章 支出

第四條 避難所費ハ災害ノ爲メ罹災者其住屋ニ起臥シ難キ事實アル場合ニ限り必要ナル避難所ヲ設置スル爲メ支出スルモノトス

第五條 食料費ハ災害ノ爲メ罹災者自ラ糶炊又ハ飲食ヲ辨給スルコト能ハサル事實アル場合ニ限リ焚出ヲ爲シ又ハ必要ナル食品ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス

前項ノ焚出ハ一人一日平均白米三合五勺トシ食品ハ男一人一日白米四合女及七十年以上十五年未滿ノ男一人一日白米三合ノ割ヲ以テ給與シ尙梅干味噌ノ類ヲ加給ス

焚出若クハ食品給與ノ日數ハ十日以内トス但災害ノ情況ニ依リ必要ト認ムルトキハ更ニ二十日以内ニ於テ其日數ヲ延長スルコトアルヘシ

第六條 被服費ハ災害ノ爲メ罹災者自ラ被服ヲ辨給スル能ハサル事實アル場合ニ限り必要ノ時服ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス其被服調製ニ要スル費用ハ左ノ制限ニ依ル
但年齢四年未滿ハ十分ノ五全四年以上十二年未滿ハ十分ノ三ヲ減スルモノトス

冬着 一人ニ付 金參圓以内 夏着 一人ニ付 金壹圓以内
春着及 秋着 一人ニ付 金貳圓以内

第七條 治療費ハ災害ノ爲メ罹災者自ラ傷痕疾病ヲ治療スル能ハサル事實アル場合ニ限り治療ニ要スル實額ヲ支出スルモノトス

但治療ヲ爲ス日數ニ付テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス

第八條 小屋掛費ハ災害ニ因リ住屋ヲ流亡燒失埋沒倒潰又ハ浸水セラレタル者ニシテ自ラ小屋掛ヲ爲スコト能ハサル事實アル場合ニ限り小屋掛ヲ爲シ又ハ爲スヘキ材料ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス

一 戸 二人以下ハ 金五圓以内 一 戸 三人以上ハ 金七圓以内
一 戸 五人以上ハ 金拾圓以内

第九條 就業費ハ罹災救助基金法第十四條ニ該當スル者ニシテ必要飲クヘカラサル資料又ハ器具ヲ自辨スルコト能ハサル事實アル場合ニ限り之ヲ給與スル爲メ支出スルモノトス

前項資料又ハ器具ノ給與ハ其價格ヲ合セ拾圓以内トス

第十條 避難所ノ建物ハ小屋掛又ハ其材料ノ給與ニ換用スルコトアルヘシ

第三章 附則

第十二條 物價ノ變動ニ因リ本規則第二章規定ノ金額ヲ増減スルノ必要アリト認ムル場合ニ在テハ知事ハ府參事會ノ意見ヲ開キ其十分ノ五迄ヲ増減スルコトヲ得

第十三條 本規則施行ニ關シ必要ナル細則ハ知事ノ定ムル所ニ依ル

○府令第八十八號 九月八日

郡一般

明治三十二年度郡部府稅中地租割戸數割課額左ノ通追加ス

- 一 地租割 地租割額ニ付金壹圓貳毛九糸
- 一 戸數割 一戸ニ付金五錢參厘

一 地租割ハ明治三十二年十月一日現地ノ地租額ニ據リ徵收スルモノトス

一 戸數割ハ明治三十二年十月一日現住ノ各戸ノ異額同居者及營業ノ爲ニ賦課スルモノトス

一 戸數割ハ明治三十二年十月十五日迄ニ町村會ニ於テ町村內各戸ノ課額ニ等差ヲ設クルモノトス但シ其ノ町村ノ總額ヲ増減スルコトヲ得ス

一 戸數割ハ官ノ救助ヲ受クルモノニハ之ヲ賦課セサルモノトス

○府令第八十九號 九月八日

郡一般

本年九月府令第八十八號明治三十二年度郡部府稅地租割戸數割徵收期限ハ本年十月二十五日限トス

○府令第九十號 九月十二日

明治二十五年七月府令第四十六號同業組合取締規程第一條中第二項第七項ヲ削除ス

(參照) 明治二十五年七月府令第四十六號抄録

第一條 此規則ヲ適用スル營業ノ種類ハ左ニ掲グルモノトス

- 一 項 丹後縮繅業
- 七 項 京都絲物商工業

○府令第九十一號 九月十二日

明治三十年(十月)府令第六十九號藝妓營業免許地中左之通追加ス

一 船井那須知村 一 竹野那間人村

○府令第九十二號 九月十二日

明治十九年七月府令第三號五業取締規則第一條中先斗町區域鍋屋町ノ下へ左之通追加ス

一 石屋町 新河原町通車道迄

但シ木屋町通ニ面スル分ハ除ク

○府令第九十三號 九月十二日

明治二十八年八月府令第六六號古物商取締法令施行規則第十八條中第十五條ノ四字ヲ削ル

(參照) 明治二十八年八月府令第六十六號抄録

第十八條 第二條各項第三條第四條第五條第六條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十四條第十五條第十六條ニ違犯シタル者ハ刑法違犯罪ヲ以テ罰セラルヘシ

○府令第九十四號 九月十五日

明治二十七年八月府令第四十一號小學校教員檢定細則第二十條ヲ左ノ通改正ス

第二十條 乙種檢定ヲ受クヘキ者ハ檢定手数料ノ領收証ヲ携帯シ檢定施行ノ當日午前九時迄ニ
試檢場ニ出頭スヘシ

但試檢場ハ豫メ受檢者ニ通知スルモノトス

(參照) 明治三十七年(八月)府令第四十一號抄錄

第二十條 乙種檢定ヲ受クヘキ者ハ檢定手数料ノ領收証書ヲ携帶シ檢定施行ノ當日午前九時迄ニ本府内務部第三課ニ出頭
スヘシ

○府令第九十五號 九月十五日

傳染病豫防ノ爲メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十五條ニ據リ左ノ町村ニ傳染病豫防
委員ノ設置ヲ命ス

葛野郡西院村 綴喜郡青谷村 相樂郡中和東村 天田郡西中筋村

竹野郡濱詰村 中郡常吉村 同郡五箇村

與謝郡上宮津村 同郡吉津村 同郡市場村 同郡養老村 同郡野間村

豫防委員ノ數ハ町村ニ於テ之ヲ定メ所轄郡役所ノ認可ヲ受ケ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ其設置
ヲ完了スヘシ

前項委員ノ氏名公職アルモノハ其職名トモハ設置後五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ

○府令第九十六號 九月二十二日

外國人ヲ養子又ハ入夫ト爲シ及ヒ歸化ヲ爲シ又ハ國籍ヲ回復セントスルコトヲ内務大臣ニ出願ス

ル者ハ町村役場區役所及ヒ郡、市役所ヲ經由シテ其願書ヲ當廳ヘ差出スヘシ

○府令第九十七號 九月二十二日

傳染病豫防ノ爲メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十五條ニ據リ左ノ町村ニ傳染病豫防
委員ノ設置ヲ命ス

葛野郡七條村 同郡桂村 同郡衣笠村 南桑田郡龜岡町 綴喜郡普賢寺村

與謝郡世屋村 竹野郡間人村 愛宕郡大宮村 何鹿郡小畑村

豫防委員ノ數ハ町村ニ於テ之ヲ定メ所轄郡役所ノ認可ヲ受ケ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ其設置
ヲ完了スヘシ

前項委員ノ氏名公職アルモノハ其職名トモハ設置後五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ當廳ニ届出スヘシ

○府令第九十八號 九月二十七日

産婆規則施行細則左ノ通定ム

産婆規則施行細則

第一條 産婆名簿ノ登録、登録事項ノ訂正、及登録ノ取消ニ關スル願書ハ別記第一號乃至第三號様
式ニ依リ區町村長ノ關印ヲ受ケ郡市役所ヲ經テ當廳ニ差出ヘシ

第二條 産婆名簿登録事項ノ謄本ヲ受ケントスルモノハ第四號様式ニ依リ當廳ニ届出ヘシ

第三條 産婆ハ郡市毎ニ組合ヲ設ケ規約ヲ定メ郡市役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ規約ヲ變更

自分ニ對スル産婆名簿登録ノ謄本御下付相成度此段相願候也

年月日

京都府知事宛

郡市町村番地士族(平民)

産婆 氏

名印

○府令第九十九號 九月 二十七日

産婆試験規則施行細則左ノ通定ム

第一條 産婆試験ハ毎年春秋二回之ヲ舉行ス

但試験願出ノ期日舉行ノ期日及場所ハ一ヶ月前之ヲ告示ス

第二條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ願出期日中ニ別記様式ニ依リ區町村長ノ調印ヲ受ケ郡市役

所ヲ經テ當廳ニ願出ヘシ

第三條 試験中一科以上缺席ノ者ハ其期ノ試験ヲ終ルコトヲ得ス

様式

産婆試験願

収入印紙

何郡市區町村番地寄附ナレハ原籍地ヲ併記スヘシ士族(平民)(外國人ナルトキハ其國籍)

氏

名

自分義(代)期産婆(實地)試験相受度別紙(産婆卒業證書若ハ俗業證書又ハ俗業履歴書)(學說試

年月日生

驗合格ノ証明書)相添此段相願候也

右

年月日

氏 名印

(外國人ナルトキハ捺印ヲ要セス)

京都府知事宛

區町村長調印

○府令第百號 九月 二十七日

傳染病豫防ノ爲メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十五條ニ據リ左ノ町村ニ傳染病豫防

委員ノ設置ヲ命ス

久世郡 富野莊村 天田郡 上豐富村 與謝郡 山田村 同郡 筒川村

船井郡 吉富村 中郡 三重村

豫防委員ノ數ハ町村ニ於テ之ヲ定メ所轄郡役所ノ認可ヲ受ケ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ其設置

ヲ完了スヘシ

前項委員ノ氏名公職アルモノハ其職名トモハ設置後五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ當廳ニ届出スヘシ

○府令第百一號 九月 二十九日

明治二十一年四月府令第四十一號産婆營業取締規則及明治二十一年四月府令第四十二號産婆試験

規則ハ九月三十日限り之ヲ廢止ス

○正誤 (九月一日)

明治三十二年八月府令第八十二號牛馬商取締規則中第二條牛馬商ノ下「營」ノ一字ヲ脱シ同則第七條本文未變更セントスルトキ「下」ハ「一」一字ハ符第十條本則ノ下ニ「第二條」ノ三字ヲ脱ス

京都府令達月報

第十號

三十二年十月

○府令第百二號 十一月

銃砲火藥類願届規則左之通相定ム

明治十九年(七月)甲第百十一號銃砲彈藥若クハ火藥取締ニ關ル願届手續ハ自今廢止ス

銃砲火藥類願届規則

- 第一條 銃砲製造營業者銃砲商及火藥商又ハ軍用銃砲所持ノ者移轉廢業又ハ改氏名其他身上ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ヘ届出ヘシ
- 但シ他府縣ヨリ移住シタル軍用銃砲所持者モ本文ニ準シ届出ヘシ
- 第二條 銃砲火藥類取締法施行細則第十五條ニ依リ銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ノ備フヘキ帳簿ハ第一號乃至第六號様式ニ據ルヘシ
- 第三條 銃砲火藥類取締法施行細則第十六條ニ依ル銃砲製造營業者銃砲商及火藥商ノ届出ハ第七號乃至第十號様式ニ據ルヘシ
- 第四條 銃砲及火藥類取締法及同施行規則同施行細則ニ依リ當廳ヲ經由シ若クハ當廳ヘ差出スヘキ願届ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

番號	賣渡月日	種別	製造		個數	賣渡先住所	同氏名
			製造之別	製造			
一	月 日	村田獵銃	製	造	何挺		
二	月 日	ピストル	修	繕	何挺		
三	、	杖銃	、	、	、		
四	、	室内射的銃	、	、	、		
合計			、	、	、		

一 名稱ノ異リタル銃砲ハ同時ニ賣渡シタルモノト雖モ別番號ニ記載スヘシ
 一 其他ノ記載例ハ第一號様式ニ準據スヘシ
 第三號様式 製造銃砲賣渡帳
 (銃砲製造業者ノ備フヘキモノ)

一 修繕ハ銃砲製造業者ニ於テ買入修繕若クハ改造ヲ加ヘタルモノヲ云フ
 一 其他ノ記載例ハ第一號様式ニ準據スヘシ

番號	注文月日	引渡月日	種別	製造		個數	注文人住所	同氏名
				製造之別	製造			
合計			、	、	、			

第四號様式 銃砲修繕及改造注文帳
 (銃砲製造業者ノ備フヘキモノ)

一 種類ハ他人所有ノ銃砲ヲ其注文ニ依リ修繕若クハ改造シタルモノ、別ヲ記載スヘシ
 一 其他ノ記載例ハ第一號様式ニ準據スヘシ
 第五號様式 火藥類買入帳
 (火藥商ノ備フヘキモノ)

非軍用銃砲			

右及御届候也

年月日

何警察(分)署長宛

住所

銃砲商 氏

名印

一 種類ハ銃砲買入帳及賣渡帳ニ依リ軍用銃砲又ハ非軍用銃砲ノ名稱ヲ洩レナク列記スヘシ
 一 越高ハ前月ヨリ持越シタル員數ヲ記スヘシ
 一 此様式ハ單ニ一例ヲ示シタルニ過キサルヲ以テ種類ノ多キトキハ其數ニ應ジ増欄スヘシ
 第八號様式

何月分銃砲製造及賣渡届

種別	越高	製造	改修	個數	賣渡	數	月	末	現在
村田	獵銃	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺

ピ	ス	トル	改	造					
獵	銃	修	繕						
杖	銃	何	々						
何	々	何	々						
合	計								

右及御届候也

年月日

何警察(分)署長宛

住所

銃砲製造營業人 氏

名印

一 改修修繕ハ銃砲製造營業者ニ於テ買入ノ改修又ハ修繕ヲ加ヘタルモノヲ云フ
 一 其他ノ記載例ハ第七號様式ニ準據スヘシ
 第九號様式

何月分銃砲修繕及改修員數届

種別	越	高	注文	個數	引渡	個數	引渡	未済	數
----	---	---	----	----	----	----	----	----	---

右及御届候也	何々々	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺
住 所	住 所	住 所	住 所	住 所	住 所	住 所	住 所
村田獵銃	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺
ピストル	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺
何々々	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺
何々々	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺
何々々	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺	何挺

年 月 日

何警察(分)署長宛

住 所

氏

名印

一種類ハ注文帳ニ依リ洩レナク名稱ヲ列記スヘシ
第十號様式

何月分火薬類取引届

種 別 越	高 買 入 數	賣 渡 數	月 末 現 在
-------	---------	-------	---------

火 藥	何 匁	何 匁	何 匁	何 匁
ダイナマイト	何 個	何 個	何 個	何 個
雷 管	何 個	何 個	何 個	何 個
導 火 線	何 把	何把又ハ何尺ノモノ	何把又ハ何尺ノモノ	何 把
合 計	、	、	、	、

右及御届候也

年 月 日

何警察(分)署長宛

住 所

火 藥 商 氏

名 印

一種類ハ火薬類買入帳及賣渡帳ニ依リ其名稱ヲ洩レナク列記スヘシ
○府令第三百三號 一十月 日

從來設置ノ火薬庫又ハ假貯藏所ニシテ其位置若クハ構造本年(八月)勅令第三百六十六號銃砲火薬類取締法施行規則ノ制限ニ抵触スルモノハ明治三十三年三月三十一日迄ニ改修スヘシ

○府令第四百四號 六月 傳染病豫防ノ爲メ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法第十五條ニ據リ左ノ町村ニ傳染病豫防委員ノ設置ヲ命ス

天田郡曾我井村 熊野郡久美谷村 與謝郡日ヶ谷村 全 郡桑洞村

豫防委員ノ數ハ町村ニ於テ之ヲ定メ所轄郡役所ノ認可ヲ受ケ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ其設置ヲ完了スヘシ

前項委員ノ氏名公職アルモノハ其職名トモハ設置後五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ當廳ニ届出スヘシ ○府令第四百五號 六月 日

明治二十一年三月 當府令第三十三號山野火入取締規則ヲ原野取締規則ト改メ本則第一條第二條第六條及伺書式左ノ通改正ス

第一條 原野ニ火入ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ各項ヲ具シ別紙書式ニ倣ヒ一ヶ月以前所轄郡長(市ニ係ルモノハ知事)ノ許可ヲ受ケ尙所轄警察署又ハ分署へ少クモ火入期日五日以前其旨届出ヘシ

- 一 所在地郡市町村名字番號反別及所有者氏名
- 一 火入期日
- 一 四至ノ境界ヲ見ルヘキ實地畧圖
- 一 接續地ノ地種目及所有者

一 接續地ノ地種目及所有者

第二條 前條ノ許可ヲ受ケタルモノハ其火入ヲ爲サント欲スル原野ニシテ森林又ハ山野ニ接シタルトキハ其境界ニ防火線ヲ設クヘシ其接續セル森林山野ノ國有ニ係ルトキハ所轄小林區署へ少クモ火入期日五日以前其旨届出スヘシ

第六條 火入ノ認可ヲ得タルモノト雖モ郡長警察官ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタルトキ又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他へ延焼ノ虞アルトキハ直チニ之ヲ中止セシムルコトアルヘシ

書式 火入 願

何郡市町村字番地

郡市町村

一 原野反別何程

持主

何

某

内

反別何程

月日火入

但國有森林山野ニ接續ノ有無接續スレハ其距離

右ノ今般前記之通火入致度候間御許可相成度別紙圖面ヲ屬シ此段相願候也

年月日

右

何

某印

郡長 宛 (市ニ係ルモノハ知事宛)

(所有者ト火入施行者ト異ナルトキハ双方連署スヘシ)

(註)明治二十年(三月)府令第三十三號抄録

第一條 山野ニ火入ヲサント欲スル者アル時ハ淀川流域ニ係ル諸山野ハ六ヶ月其他ハ三ヶ月前左ノ各項ヲ具シ別紙書

式ニ徴シ出願所轄郡區役所ヲ經テ當廳ノ認可ヲ受クヘシ
 一 火入期日 一箇所限地目段別及宇番號 一四至境界ヲ見ルヘキ實地略圖 一官有接續地ノ有無
 第二條 前條ノ認可ヲ受ケタル者ハ其火入ヲ爲サント欲スル由野ノ森林原野ニ接シタル境界ニ防火線ヲ設ケ且其森林原野所有者官林ナル時ハ大林區署若クハ大林區區派出所若クハ官林巡邏及ヒ警察署ヘ少クモ火入期日五日以前ニ其旨ヲ報告スヘシ

第六條 火入認可ヲ得タル者ト雖モ郡區長警察官大小林區署員大林區區派出所員官林巡邏ニ於テ防火ノ準備不充分ト認メタル時又ハ風勢ノ變動等ニヨリ他ヘ延燒ノ虞アル時ハ直ニ之ヲ中止スル事アルヘシ
 ○府令第六十六號 十月六日
 本年七月府令第七十三號郡長委任條件第三十六項ヲ左ノ通改正ス

民有原野火入伺許否ノ事
 (參照)明治三十二年(七月)府令第七十三號抄錄
 一 民有山林火入伺許否ノ事
 但澁川流域ニ關スルモノ及ヒ森林法ニヨリ保安林ニ編入セラレタルモノハ此限ニアラス

○府令第七十七號 十月六日
 明治二十五年三月京都府令第十號小學校設備規則左ノ通改正ス

小學校設備規則

第一條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ乾燥開豁ニシテ成ルヘク風致ニ富ミ且兒童ノ通學ニ便利ナル場所ヲ擇フヘシ
 校地ハ工場鐵道酒樓娼家劇場寄席獄署火葬場遊病院若クハ瘴氣發生ノ虞アル池沼等渾テ授業上曠上衛生上ニ妨アル場所及危險ナル場所ニ接近スヘカラス
 第二條 休操場ハ校地内平坦ニシテ日常リ好キ地面ヲ以テ之ニ充ツヘシ

特別ノ事情アル場合ニ於テ休操場ヲ校地外ニ設クルトキハ成ルヘク校舍ニ接近シ休操教授及休憩時間ニ於ケル生徒ノ遊歩等ニ差支ナカラシムヘシ
 休操場ハ方形若クハ之ニ類スル形狀ニシテ其面積ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 尋常小學校ニ於テハ生徒百名未満ハ百坪以上トシ生徒百名以上ハ一名ニ付一坪以上ノ割合トス

二 高等小學校ニ於テハ生徒百名未満ハ百五十坪以上トシ生徒百名以上ハ一名ニ付一坪半以上ノ割合トス 但特別ノ事情アルトキハ生徒一名ニ付一坪マテニ減スルコトヲ得

第三條 校地内ニハ善良ナル飲料水及雜用水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ
 校地ノ周圍ニハ採光通氣ヲ妨ケサルサ度トシ適宜樹木ヲ栽植シ且柵等ヲ設クヘシ

第四條 校舍ノ建築ハ授業上管理上衛生上ノ便利ヲ主トシ外觀ノ虛飾ヲ去リテ質朴堅牢ナルコトヲ要ス

校舍ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外平屋造ト爲スヘシ
 校舍ヲ建築スルニ方リテハ學齡兒童數ニ基キ將來増加スヘキ生徒ノ員數ヲ見積リ後日ノ増築ニ適スヘキ設計ヲナスヘシ

第五條 校舍ハ學校ノ種類學級ノ編制生徒ノ員數等ニ應シ之ニ必須ナル通常教室職員室ヲ設クヘシ

前項ノ外唱歌裁縫等ヲ課スル學校ニ於テハ之ニ應スル特別教室ヲ設ケ又必要アル場合ニ於テハ講堂生徒扣所圖書器械標本室雨中体操場宿直室湯所小便室物置等ヲ設ケヘシ
生徒扣所ヲ設クル場合ニハ成ルヘク男女ヲ區別シ其面積ハ生徒八人ニ付一坪以上ノ割合ナルヲ要ス

土地情況ニ依リ便宜教員住宅ヲ設ケヘシ

第六條 御眞影並ニ勅語謄本ヲ奉藏セル學校ニ於テハ奉安所其他適當ノ設備ヲナスヘシ

第七條 教室ハ成ルヘク東西ニ長ク南北ニ短キ長方形ト爲シ其構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級學校ノ教室ハ幅三間以上四間以下長四間以上五間以下單級學校ノ教室ハ幅及長各四間以上

五間以下トシ其大ハ生徒一人ニ付三尺平方ノ割合ヨリ小ナルヘカラス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トス

牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設ケヘシ

採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ上縁ハ八尺

五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルヲ得

裁縫教室ノ如キ十分ノ光線ヲ要スルモノハ採光窓ノ面積ヲシテ牀面積ノ四分ノ一以上ナラシム

ルヲ要ス

教室内ノ壁ハ中性色(灰色、淡黄色、淡空色ノ類)ト爲スヘシ

寒氣烈キ地方ニ於テハ暖房ノ裝置ヲ爲シ又ハ暖房器ヲ備フヘシ

各教室ニハ通常二箇ノ出入口ヲ設ケ引戸トスルカ若クハ外開キ戸トシテ廻リ止メヲ設ケヘシ

各教室ノ間仕切ハ隣室ノ音響ヲ阻絶スルニ足ルヲ要ス

第八條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其幅ヲ六尺以上トスヘシ

二階造ノ校舍ニ於テハ二箇以上ノ階段ヲ設ケヘシ

階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊場ヲ設ケヘシ

階段ハ兩側(幅廣キモノハ中央ニ於テモ)ニ手欄ヲ設ケヘシ

第九條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避ケヘシ

昇降口ニハ靴拭下駄棚傘置場ヲ設ケヘシ

第十條 便所ハ別棟トシ夏期常風ノ方向ニ注意シ其周圍ニハ塀牆ヲ設ケ又ハ樹木ヲ植エ井ヲ距ル

コト四間以上タルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百名ニ付大便所二以上小便所四以上女兒百名ニ付五以上ノ割合ヲ以テ

之ヲ設ケヘシ

第十一條 校具ハ甲乙ノ二種トシ學校ノ種類學級ノ編制生徒ノ員數等ニ應シ之ニ必須ナルモノヲ

備フヘシ

尋常小學校ニ於テ普通ニ備フヘキ甲種ノ校具ハ左ノ如シ

本府所定教科用圖書、校舍敷地及附近地圖、郡市内地圖、管内地圖、日本地圖、地球儀、指數器、大算盤、度量衡、庶物指教用具、其他教授上必要ナルモノ

高等小學校ニ於テ普通ニ備フヘキ甲種ノ校具ハ左ノ如シ

本府所定教科用圖書、校舍敷地及附近地圖、郡市内地圖、管内地圖、日本地圖、萬國地圖、地球儀、定規、兩脚規、度量衡、理科教授用標本及器械、圖書裁縫用具、樂器、体操器械、其他教授上必要ナルモノ

乙種ノ校具ハ國旗、校旗、門標、校印、職印、職員及生徒ノ名札、黑板、職員及生徒用机并腰掛、時計、寒暖計、身体検査器械、清潔法用具、視察并付風品、算盤、書籍棚、戸棚、揭示札、日用品其他學校ニ必要ナル物件ニシテ甲種ニ屬セザルモノ

右ニ掲グル外成ルヘク教育ニ關スル法令官報及本府公布式刊行物辭書其他必要ナル參考書類等ヲ備フヘシ

第十二條 學校ニ於テ普通ニ備フヘキ表簿ハ學校沿革誌、教授細目及教案、學籍簿、試驗成績表、身体検査表、證書(卒業修業學習)授與錄、試驗問題錄、生徒卒業後狀況錄、職員履歷書綴、職員出勤簿、生徒出席簿、日誌、圖書目錄、器械及標本目錄、市町村資産戸口調査表、學事年報謄本、教育費豫算書謄本、其他必要ナル表簿等トス

第十三條 生徒用ノ机腰掛ノ寸法ハ左表ニ準シ尋常小學校ニ於テハ一號乃至三號ノ三種高等小學校ニ於テハ三號乃至五號ノ五種尋常高等併置ノ小學校ニ於テハ一號乃至五號ノ五種ヲ備ヘ兒童ノ身長ニ適應セシムヘシ

小學校用机及腰掛寸法表

項目	番號				
	一號	二號	三號	四號	五號
身長	一〇〇以上 一一〇未満 (三三、〇〇以上) 三六、三〇未満	一一〇以上 一二〇未満 (三六、三〇以上) 三九、六〇未満	一二〇以上 一三〇未満 (三九、六〇以上) 四二、九〇未満	一三〇以上 一四〇未満 (四二、九〇以上) 四六、二〇未満	一四〇以上 一五〇未満 (四六、二〇以上) 四九、五〇未満
机ノ高	一五、五〇	一七、〇〇	一八、五〇	二〇、〇〇	二一、五〇
机ノ幅	一一、〇〇	"	"	"	"
机ノ長 (二人掛)	三〇、〇〇乃至 三六、〇〇	"	三六、〇〇	"	"
腰掛ノ高	八、六〇	九、四〇	一〇、二〇	一一、〇〇	一一、八〇
腰掛ノ幅	八、二〇	九、〇〇	九、八〇	一〇、六〇	一一、四〇
腰掛ノ長 (三人掛)	二六、〇〇乃至 三三、〇〇	"	三三、〇〇	"	"
倚兒男 用横木ノ高	五、〇〇	五、四〇	五、八〇	六、二〇	六、六〇

線	女		兒	
	第一橫木ノ高	第二橫木ノ高	第一橫木ノ高	第二橫木ノ高
一	四、〇〇	四、〇〇	四、八〇	五、二〇
二	四、四〇	四、四〇	五、二〇	五、六〇
三	四、八〇	四、八〇	五、六〇	六、〇〇
四	五、二〇	五、二〇	六、〇〇	六、四〇
五	五、六〇	五、六〇	六、四〇	六、八〇
六	六、〇〇	六、〇〇	六、八〇	七、二〇
七	六、四〇	六、四〇	七、二〇	七、六〇
八	六、八〇	六、八〇	七、六〇	八、〇〇
九	七、二〇	七、二〇	八、〇〇	八、四〇
十	七、六〇	七、六〇	八、四〇	八、八〇
十一	八、〇〇	八、〇〇	八、八〇	九、二〇
十二	八、四〇	八、四〇	九、二〇	九、六〇
十三	八、八〇	八、八〇	九、六〇	一〇、〇〇
十四	九、二〇	九、二〇	一〇、〇〇	一〇、四〇
十五	九、六〇	九、六〇	一〇、四〇	一〇、八〇
十六	一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、八〇	一一、二〇
十七	一〇、四〇	一〇、四〇	一一、二〇	一一、六〇
十八	一〇、八〇	一〇、八〇	一一、六〇	一二、〇〇
十九	一一、二〇	一一、二〇	一二、〇〇	一二、四〇
二十	一一、六〇	一一、六〇	一二、四〇	一二、八〇
二十一	一二、〇〇	一二、〇〇	一二、八〇	一三、二〇
二十二	一二、四〇	一二、四〇	一三、二〇	一三、六〇
二十三	一二、八〇	一二、八〇	一三、六〇	一四、〇〇
二十四	一三、二〇	一三、二〇	一四、〇〇	一四、四〇
二十五	一三、六〇	一三、六〇	一四、四〇	一四、八〇
二十六	一四、〇〇	一四、〇〇	一四、八〇	一五、二〇
二十七	一四、四〇	一四、四〇	一五、二〇	一五、六〇
二十八	一四、八〇	一四、八〇	一五、六〇	一六、〇〇
二十九	一五、二〇	一五、二〇	一六、〇〇	一六、四〇
三十	一五、六〇	一五、六〇	一六、四〇	一六、八〇

木表中身長欄ハ「センチメートル」其括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

第十四條 校地及体操場ヲ選定シ校舍ヲ建築スル場合ニハ左ノ要項ヲ具シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 校地平面圖(縮尺二百分ノ一用紙美濃紙)

一 字番地名面積校地面ノ高低方位体操場ノ區劃校地内ニ建設スヘキ建物ノ配置

一 地質及水質

一 地質ニ就キテハ燥濕砂地築地等ノ別ヲ記シ水質ニ就キテハ分拆表ヲ添フヘシ

一 四隣ノ狀況

一 第一條第二項ニ關スル校地附近建物及地物等ノ狀況

一 校舍平面圖(縮尺二百分ノ一用紙美濃紙)

一 方位各室ノ使用目的窓出入口廊下井戸下水便所ノ位置ニ階造ノ校舍ニ於テハ階段ノ位置等ヲ見得ヘキモノ

一 工事仕様書

一 建物ノ木組牀ノ高天井ノ高窓ノ大階段ノ高等ヲ知り得ヘキモノ

一 生徒通學ノ最近距離

一 學校所屬區域内學齡兒童數(高等科ニ係ルモノハ之ヲ要セス)

一 各學年男女別生徒數及其學級編制

一 將來增加スヘキ見込ノ男女別兒童數

一 加設教科目

一 敷地買上費及建築費額

一 工事着手并ニ竣功期限

一 体操場ヲ校地外ニ設クル場合ニハ校舍トノ距離ヲ記載スルヲ要ス

第十五條 校地体操場ノ増加校舍ノ増築改修等原形ニ著シキ變更ヲ及ボスヘキ場合ニ於テモ前條ニ準シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第十六條 校舍建築落成ノ上ハ三日以内ニ其旨知事ニ開申スヘシ

附 則

第十七條 既設小學校ノ設備ニシテ本規則ニ依リ難キモノアルトキハ其事由ヲ詳具シ市町村立學校ニ就キテハ市町村長ニ於テ私立小學校ニ就キテハ其設立者ニ於テ期限ヲ定メテ猶豫ヲ請フヘシ

○府令第八八號 十月 日

明治三十年三月三十一日 京都市令第三十二號市町村立小學校教員ノ給料額及旅費額ノ標準并給料旅費其他諸給與ノ支給方法第十八條市町村立小學校教員旅費額ノ標準中副導瀛車賃ノ欄「三錢以下」トアルヲ

明治三十二年十月 府令

「四錢以下
二錢以上」ト改正ス

附 則

本令ハ明治三十二年十一月一日ヨリ施行ス

○府令第九號 十月十三日

明治三十年四月法律第四十七號重要輸出品同業組合法ニ基キ設立シタル組合地區内ニ於テ新規同業ヲ營マントスルモノ并ニ組合員ノ廢セントスルモノ、願届書面ニハ自今後其組合組長ノ認印ヲ受クヘシ

○府令第十號 十月三十一日

本年七月二十一日京都府令第七十三號郡長委任條件中第七第十二第十五ノ三項ニ左ノ但書ヲ追加ス
但河川法施行ノ河川ハ此限リニ非ス

(參照) 明治三十二年七月府令第七十三號抄錄

第五 府費支辨ニ係ル道路堤防倒水ヲ處分スル事

第十二 雜費新設變更又ハ修繕爲ノ堤防道路堤防照會否ノ事

第十五 渡船場設置及渡船費ニ係ル照會否ノ事

○正誤 (十月三日)

本年九月府令第九十八號第一號様式乃至第三號様式及府令第九十九號様式中區町村長ノ下調ノ字ハ符及區町村長印ハ同行下出願者氏名ト并ヒ書スルノ誤

京都府令達月報 第十一號 三十二年十一月

○府令第百十一號 十一月十一日

公立中學校高等女學校實業學校職員俸給旅費其他諸給與ニ關スル規則左ノ通定ム

公立中學校高等女學校實業學校職員俸給旅費其他諸給與ニ關スル規則

俸 給

第一條 俸給ハ新任増俸減俸トモ總テ發令ノ翌日ヨリ計算ス

第二條 俸給ハ現給在職滿一年ヲ經ルニアラサレハ増給スルコトヲ得ス但特別ノ事情アルモノハ此限ニアラス

第三條 奏任又ハ判任待遇ノ職員ニシテ在職中死亡シタルトキハ其俸給月額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給ス但遺族トハ官吏遺族扶助法ニ於テ遺族ト稱スル者ヲ謂フ

第四條 他ニ轉任セシ者ノ俸給ハ發令ノ當日迄他ヨリ轉任シタル者ノ俸給ハ發令ノ翌日ヨリ計算ス但他ニ轉任ノ者ノ日割給ハ其際之ヲ支給ス

他ニ轉任ノ際俸給過渡アルトキハ其際之ヲ返納セシム

第五條 年俸又ハ月俸ノ者廢職退職休職又ハ死亡ノトキハ年俸ハ月割計算トシ各其當月分ノ金額

明治三十二年十一月 府令

百六十九

ヲ其際支給ス

第六條 出張中廢職退職又ハ休職トナリタル者其翌月ニ至リ該辭令又ハ通知ヲ受ケタルトキハ其日迄從前ノ俸給ヲ支給ス

第七條 廢職退職又ハ休職トナリタル者事務引繼キ業務調理ノ爲メ特ニ命ヲ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙從前ノ俸給ヲ支給ス

第八條 年俸又ハ月俸ノ者疾病ノ爲メ執務セサルコト九十日ヲ除キ及私事ノ故障ニ依リ執務セサルコト三十日ヲ除キハ俸給ノ半額ヲ減ス但公務ノ爲メ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ服忌ヲ受クル者及特ニ賜暇休養スル者ハ此限ニアラス
疾病ト私事故障ト連續スル場合ニ於テハ之ヲ通算セス

第九條 減俸ノ者廢職退職休職又ハ死亡ノトキハ其減俸ニ係ル當月分ノ全額ヲ支給ス

第十條 豫備後備ノ軍籍ニアル者召集ニ當リ其俸給ヲ受クル間ハ本職俸給ノ支給ヲ停止ス但其額本職俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其不足額ハ本職俸給ヨリ之ヲ補給ス

第十一條 職員休職中ハ俸給ヲ支給セス
兵役ノ爲メ入營スルトキハ出發ノ當日ヨリ復歸ノ前日迄俸給ノ支給ヲ停止ス

第十二條 兼務ノ爲メ支給スル俸給ハ兼務ノ學校ニ於テ支給ス

第十三條 俸給ハ左ノ定日ニ於テ支給ス但休暇日ニ當ルトキハ繰下トス

一年俸ハ十二分ヲ其月分毎月二十一日

一月俸ハ毎月二十一日

第十四條 俸給支給定日後新任ノ者及他ヨリ轉任ノ者ノ日割給ハ其際支給スルモノトス

第十五條 第七條ノ場合ニ於テ業務調理翌月以降ニ涉リ全月分ヲ支給スルモノハ第十三條ノ定日ニ依ル但最後ノ月ハ終了ノ日迄ノ分ヲ日割ヲ以テ其際支給ス

第十六條 俸給ヲ支給スルニ當リ計算上厘位未滿ノ端數ヲ生スルトキハ之ヲ切捨ルモノトス
日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依ル

第十七條 年額又ハ月額ノ手當金ノ支給方法ハ年俸又ハ月俸ノ例ニ準シ支給ス

第十八條 校長以下職員ノ俸給ハ左ノ範圍ニ於テ支給ス但特別ノ事情アルトキハ最低額以下ノ俸給ヲ支給スルコトアルヘシ

一 學校長 月俸參拾圓以上貳百圓以下

但委任待遇ノ者ハ年俸六百圓以上貳千五百圓以下

一 教諭 月俸參拾圓以上貳百圓以下

但委任待遇ノ者ハ年俸六百圓以上貳千五百圓以下

一 助教諭 月俸拾五圓以上五拾圓以下

一 會監 月俸拾五圓以上五拾圓以下

- 一書記 月俸拾貳圓以上五拾圓以下
- 一初導 月俸八圓以上五拾圓以下
- 一准訓導 月俸五圓以上貳拾圓以下

旅費

第十九條 旅費ハ職務ニ依リ旅行スルトキ之ヲ支給ス

第二十條 旅費ハ分テ三等トシ左表定ムル處ニ從ヒ順路ニ依リ之ヲ支給ス

等	級	汽車賃	船賃	馬賃	宿泊料	日當	食卓料
一等	委任持過ノ者 俸給月額百圓以上ノ者 月手當百圓以上ノ者	一哩ニ付	一海里ニ付	一里ニ付	一夜ニ付	一日ニ付	一日ニ付
二等	列任持過ノ者 俸給月額十五圓以上百圓未満ノ者 四未滿ノ者 年手當二十圓以上百圓未満ノ者 月手當八圓以上百圓未満ノ者	四錢	四錢	拾五錢	壹圓	五拾錢	九拾錢
三等	前二項以外ノ者	參錢	參錢	拾錢	七拾錢	參拾錢	五拾錢

第二十一條 旅費支給ノ方法ハ總テ明治三十年九月勅令第三百三十三號內國旅費規則ノ例ニ據ル

諸給與

第二十二條 職員中勤勞アル者ニ賞與金ヲ支給スルコトアルヘシ

第二十三條 宿直賄料及夜勤辦當料ヲ適宜支給スルコトヲ得

第二十四條 宿直賄料額夜勤辦當料額及其支給方法ハ郡市町村立又ハ町村學校組合立學校ニ在テハ其會議ノ決議ヲ經テ郡市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ定メ知事ニ開申スヘシ

○府令第百十二號 十一月十日

郡一般

明治三十年二月府令第十五號抄録

○府令第百十三號 十一月十四日

第十二條 課目課額ニ據リ賦稅又ハ免稅ノ許可ヲ得ントスルモノハ業名上リ金高其他第一條ノ事項ヲ配賦シ比隣同業者ニ

名以上ノ連署ヲ受ケ町村長ヲ經由シ郡長ニ出願スヘシ但シ同業者ナキトキハ異業者ノ連署ヲ受クルモ妨ナシ

○府令第百十四號 十一月十七日

明治三十二年一月京都府令第五號府立學校書記退隱料及遺族扶助料規則ハ廢止ス

○府令第百十四號 十一月十七日

ハ式圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス本令ハ公布ノ日ヨリ實施ス

○府令第十五號 十一月二十一日

右傳染病豫防法第十五條ニ據リ傳染病豫防委員ノ設置ヲ命ス
豫防委員ノ數ハ町村ニ於テ之ヲ定メ所轄郡役所ノ認可ヲ受ケ本令發布ノ日ヨリ七日以内ニ其設置
ヲ完了スヘシ

各町村

前項委員ノ氏名ハ(公職アルモノハ其職名トモ)設置後五日以内ニ所轄郡役所ヲ經テ當廳ニ届出スヘシ
但シ既ニ設置ノモノハ此限リニアラス

○府令第十六號 十一月二十二日

ペスト病疑似症ニ對シ明治三十年法律第三十六號傳染病豫防法ノ全部ヲ適用ス
本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

○府令第十七號 十一月二十二日

ペスト病豫防ノ爲メ大阪府大阪市ヨリ襪褌古綿古衣類古紙類古革類古羽毛類ノ輸入ヲ禁ス犯ス者
ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス
本令ハ公布ノ日ヨリ實施ス

京都府令達月報

第十二號

三十二年十二月

○府令第十八號 十二月八日

府會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ
分別府會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ別紙ノ通定ム

(別紙)

府會ノ議決ヲ經ヘキ事件ト市部會、郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件トノ分別
第一條 府會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

警察部ニ係ル歳出豫算

五條警察署ニ係ル歳出豫算

電話修繕費豫算

名區勝地ニ達スル道路橋梁費(道所保存費ヲ除ク)豫算

大津街道道路橋梁費豫算(三條池市郡界ヨリ宇治郡山科村字八軒町ニ至リ近江國境迄)

大和街道道路橋梁費豫算(東洞院市郡界ヨリ紀伊郡伏見町觀月橋ニ接スル迄)

本條中ニ掲グル路線ヨリ緊要ナル鐵道停車場へ直達スル道路橋梁費豫算

市郡境界接續ニ係ル土木費豫算

府會議諸費(市部、郡部選出議員及名譽職等會費、其他名譽職員ニ係ル費用辨別豫算ヲ除ク)豫算 飲食物検査費豫算

- 地方衛生會費豫算
- 第一中學校費豫算
- 高等女學校費豫算
- 學事諸費豫算
- 府公報諸費豫算
- 地方森林會費豫算
- 蠶種検査費豫算
- 府稅取扱費豫算
- 府監獄ニ係ル諸費豫算
- 府吏員費豫算
- 本條中ニ掲ケル各費目ニ屬スル收入豫算
- 教育費繼續年期及支出方法
- 療病院醫學校資金管理方法
- 療病院醫學校歳入歳出豫算
- 小學校教員恩給金歳入歳出豫算
- 慈惠救濟金歳入歳出豫算
- 師範學校費豫算
- 第二中學校費豫算
- 圖書館費豫算
- 教育補助費豫算
- 揭示場諸費豫算府廳其他本條ニ掲ケル各費目ニ屬スルモノ
- 地方測候所費豫算
- 勸業會費豫算
- 府廳舍建築修繕費豫算
- 淀川改良工事費負擔豫算
- 市郡分賦額豫算
- 府有財産及營造物ノ管理方法
- 罹災救助基金ニ關スル事
- 療病院醫學校資金歳入歳出豫算
- 小學校教員恩給基金歳入豫算
- 慈惠救濟基金管理ニ關スル事
- 農工銀行株式引受資金歳入歳出豫算

高等女學校資金管理方法
府立學校學資金管理ニ關スル事

第二條 市部會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 市警察署ニ係ル歳出豫算
- 市部選出議員及同名舉職參事會員其他名譽職員ニ係ル費用辨償額豫算
- 市ニ係ル衛生諸費豫算
- 市ニ係ル傳染病豫防補助費豫算
- 簡易商業學校費豫算
- 市ニ係ル勸業費豫算
- 府稅取扱費豫算
- 市ニ係ル府會議員選舉費豫算
- 市ニ係ル豫備費豫算
- 本條中ニ掲ケル各費目ニ屬スル收入豫算
- 市警察署ニ係ル歳出豫算
- 名區勝地ニ達スル道路橋梁費ノ内道路保存費豫算
- 郡ニ係ル土木費豫算
- 市郡分賦市部負擔額豫算
- 京都市豫算編入額豫算
- 市ニ係ル衆議院議員選舉費豫算
- 市ニ係ル教育費豫算
- 揭示場諸費豫算本條ニ掲ケル各費目ニ屬スルモノ

第三條 郡部會ノ議決ヲ經ヘキ事件左ノ如シ

- 郡警察署ニ係ル歳出豫算
- 名區勝地ニ達スル道路橋梁費ノ内道路保存費豫算
- 郡ニ係ル土木費豫算

郡村町ニ係ル土木費補助費豫算
 郡部選出議員及同名譽職等事會員其他名譽職員ニ係ル費用辨償額豫算
 郡ニ係ル衛生諸費豫算
 郡ニ係ル傳染病豫防費補助費豫算
 郡役所ニ係ル諸費豫算
 郡ニ係ル勸業費豫算
 揭示場諸費豫算本條ニ掲クル各
府ニ屬スルモノ
 郡ニ係ル衆議院議員選舉費豫算
 府債ニ關スル事
 郡ニ係ル豫備費豫算
 郡ニ係ル府稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
 郡ニ係ル府稅豫算
 土木費繼續年期及支出方法
 農學校基本金管理ニ關スル事
 ○府令第百十九號 十二月
 本年十一月府令第百十四號同第百十七號中古羽毛類ノ下へ古敷物類古麻袋類ノ八字ヲ追加ス

郡ニ係ル檢査驅逐費豫算
 農學校費豫算
 郡ニ係ル救育費豫算
 郡ニ係ル勸業補助費豫算
 府稅取扱費豫算
 郡ニ係ル府會議員選舉費豫算
 府債豫算
 市郡分賦郡部負擔額豫算
 本條中ニ掲クル各費目ニ屬スル收入豫算
 土木補助費繼續年期及支出方法
 農學校基本金歳入歳出豫算

(參照) 明治三十二年十一月 府令第百十四號

ヘスト清漆類ノ爲メ兵庫縣神戸市ヨリ濫獲古綿古衣類古紙類古草類古羽毛類ノ輸入ヲ禁ス犯ス者ハ或圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス本令ハ公布ノ日ヨリ實施ス

明治三十二年(十一月)府令第百十七號

ヘスト清漆類ノ爲メ大阪府大阪市ヨリ濫獲古綿古衣類古紙類古草類古羽毛類ノ輸入ヲ禁ス犯ス者ハ或圓以上拾圓以下ノ罰金ニ處ス本令ハ公布ノ日ヨリ實施ス

○府令第百二十號 十二月

明治三十一年 京都府令第三十九號度量衡取締規則左之通改正ス

度量衡取締規則

第一條 本則ニ於テ營業者ト稱スルハ度量衡法ニ據リ免許ヲ受ケタル度量衡器ノ製作者修置者及販賣者ヲ謂ヒ又使用者ト稱スルハ度量衡器ヲ營業ノ目的ニ使用スルモノ及度量衡法第九條第四項ニ該當スルモノヲ謂フ

第二條 度量衡ノ取締ハ度量衡檢定所ノ官吏警察官吏及市町村長之ヲ行フモノトス
 但市長ハ本項ノ事務ヲ區長ニ分掌セシムルコトヲ得
 市町村長ハ書記ナシテ前項取締ノ爲ニ行フ臨檢ノ代理ヲナサシムルコトヲ得

第三條 前條ノ吏員度量衡法第十二條ニ據リ携帯スル証票左ノ如ク

但警察官吏ハ此限ニアラズ

第何號

度量衡取締吏員之證

裏

明治何年何月何日

京都府印

用紙厚紙
三寸
二寸

第四條 度量衡器ノ構造ニ異狀ヲ生シ又ハ差狂ノ疑アルモノハ直ニニ修覆スルカ若クハ更ニ其檢定ヲ受ケタル後ニアラサルハ之ヲ販賣シ又ハ使用スルコトヲ得ズ

第五條 取締吏員前條ノ度量衡器ヲ發見シタルトキハ度量衡檢定所ニ差出サシムルコトアルヘシ所有主又ハ使用者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ズ

第六條 度量衡類似ノ器物ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スヘカラス

第七條 使用者ハ左ノ事項ニ該當スル度量衡器ヲ店舗其他賣買、受授、證明ヲ爲ス場所ニ置キ又ハ行商等ノ際携帶スヘカラス

但使用セサル事實ノ明ラカナルモノハ此限ニアラズ

一 檢定ヲ受ケサルモノ

一 毀損、差狂其他構造ニ異狀アルモノ

一 類似度量衡器

第八條 營業者ハ各營業ノ種類ヲ記シタル看板ヲ戶外ニ掲ケヘシ其維形左ノ如シ

○何器製作(修覆)(販賣)所

氏名

堅三尺以上
横一尺以上
厚サ 隨意

衡器販賣者ニシテ桿秤ノ取締錘系ノ金屬ニアラサルモノ、修覆營業サナスモノハ猶左ノ看板ヲ掲ケルヲ要ス

○桿秤取締錘系修覆所

氏名

堅三尺以上
横一尺以上
厚サ 隨意

第九條 度量衡器ノ製作者及輸入販賣者ハ其製作輸入器物ノ販賣價格ヲ定メタルトキハ之ヲ當廳ニ届出ツヘシ、變更加除シタルトキ亦同シ

修理ノ點、合格不合格ノ區別及修理料其他修理依頼者ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

但桿秤ノ取締錘系ニシテ金屬ニアラサルモノ、修理ハ其帳簿ヲ別冊ニスヘシ

前項ノ帳簿ヲ保存期限中ニ紛失若クハ毀損シタルトキハ十日以内ニ當廳ニ届出ツヘシ

第十三條 營業者ハ各其營業ノ種類ニ準シ別紙様式ニ依リ前年一月一日ヨリ同十二月三十一日ニ

至ル一ケ年間ニ於ケル營業報告書ヲ調製シ毎年一月三十一日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

但桿秤ノ取締錘系ニシテ金屬ニアラサルモノ、修理營業報告ハ前年四月一日ヨリ其年三月三

十一日ニ至ル一ケ年分ヲ毎年四月十五日迄ニ當廳ニ差出スヘシ

營業者ハ死亡其他ノ事故ニ因リ廢業シタルトキハ相續人若クハ本人ニ於テ其期間ニ於ケル營業

報告書ヲ前項様式ニ準シテ調製シ免狀返納ト同時ニ當廳ニ差出スヘシ

第十四條 度量衡器ノ修理者ハ修理ノ依頼ヲ受ケ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒絕スルコトヲ得ス

第十五條 衡器販賣者ニシテ度量衡法施行規則第四十一條ニ據リ桿秤ノ取締錘系ニシテ金屬ニア

ラサルモノ、修理營業ヲ届出ツルモノハ左ノ事項ヲ記載シタル營業設計書ヲ添付スヘシ

一 修理場ノ位置

二 修理セントスル桿秤ノ種類

三 修理用分銅秤架其他器具ノ種類、個數

前項ノ設計ヲ變更シタルトキハ更正届出ヲ要ス

第十六條 營業者ニ於テ桿秤ノ取締錘系ノ金屬ニアラサルモノ、修理ヲナシタル場合ニハ其直點

、盛出、盛止ノ正否及感量ノ有無ヲ檢スヘシ

但秤量十五貫又ハ五十「キログラム」以上ノモノハ直點及盛出ノ外猶十五貫又ハ五十「キログ

ラム」ニ相當スル目盛ニ於テ其掛量ノ正否及感量ノ有無ヲ檢スヘシ

第十七條 桿秤ノ取締錘系ノ金屬ニアラサルモノ、修理者ノ度量衡法施行規則第四十三條ノ届書

ニハ所有者ノ住所氏名及其器物ノ物質、秤量並ニ製作者(輸入者)ノ氏名(若クハ其記號)年號、

番號其他差狂ノ點ヲ詳記スヘシ

第十八條 度量衡器ヲ修理セントスルモノハ修理營業者ノ其住所氏名ヲ問フニ當リ之ヲ拒ミ又ハ

詐稱スヘカラス

第十九條 度量衡器ノ檢定ヲ受ケントスルモノハ本人若クハ代人檢定所ニ出頭シテ器物ノ受授ヲ

ナスヘシ

第二十條 度量衡器ノ製作修理及販賣營業ニ關スル書面ヲ當廳ニ差出スモノハ所轄郡市役所、町

村役場ヲ經由スヘシ

但特ニ規程アルモノ又ハ身元保證金ニ關スルモノハ此限ニアラス

第二十一條 本則第五條、第六條、第十二條、第十四條、第十六條、第十八條ニ違背シタルモノハ

壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料又ハ一日以上十日以内ノ拘留ニ處ス

第二十二條 本則第四條、第七條、第八條、第九條、第十三條、第十五條ニ違背シタルモノハ五錢以

上一圓以下ノ科料ニ處ス

附 則

第二十三條 本則ハ明治三十三年一月一日ヨリ施行ス
様式(用紙美濃)

自何年何月 度量衡器製作(輸入)販賣營業報告
至何年何月

度量衡器製作(輸入)販賣者 住 所 氏 名

種 別	前年度		本年度		價 代	價 代	價 代	價 代	價 代
	高 個	數	高 個	數					
計									

右之通ニ有之候也

年 月 日

右 何 某印

知 事 宛

自何年何月 度量衡器修覆營業報告
至何年何月

度量衡器製作修覆者 住 所 氏 名

種 別	物 質	修 覆	
		個 數	料 金
計			

右之通ニ有之候也

年 月 日 知 事 宛

右 何 某印

自何年何月 桿秤取締係修覆營業報告
至何年何月

住 所

種	別	個	修	數	料	名	氏	名
							種	價
計								

右之通ニ有之候也
 年 月 日
 知 事 宛
 右
 何
 某 印

備考

- 一表中各自ノ營業ニ關係ナキモノハ其欄ヲ省クヘシ
- 一表中種別ノ欄内ニハ左ノ種類ヲ區別スルニ止メ其全長、全量、秤量等ヲ記入スルニ及ハス
 度量器 直尺、蠟尺、卷尺、鯨尺、蠟鯨尺、卷鯨尺、曲リ尺、鋸尺
 量器 金屬製秤、鐵葉製秤、玻璃製秤、木製秤、斗概
 衡器 分銅、天秤、臺秤、金屬製桿秤、木骨製桿秤
- 一衡器中分銅ノ個數、欄ニハ組ヲナスモノハ組數、個ヲナスモノハ個數ヲ區別シテ記入スヘシ
- 一度量衡器一器以上ノ營業ヲ兼スルモノハ其報告書ヲ各別ニスヘシ

○府令第百二十一號 十二月二十二日

京都市ニ於テ發熱及急性膿腫アル患者ヲ診斷シ又ハ死因不詳ノ病死者ヲ檢按シタル醫師ハ直ニ忠告若クハ死体所在地ノ警察官吏檢査委員市長又ハ豫防委員ニ届出ヘシ違フモノハ拾圓以下ノ罰金ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十二年十二月 府令

百九十九

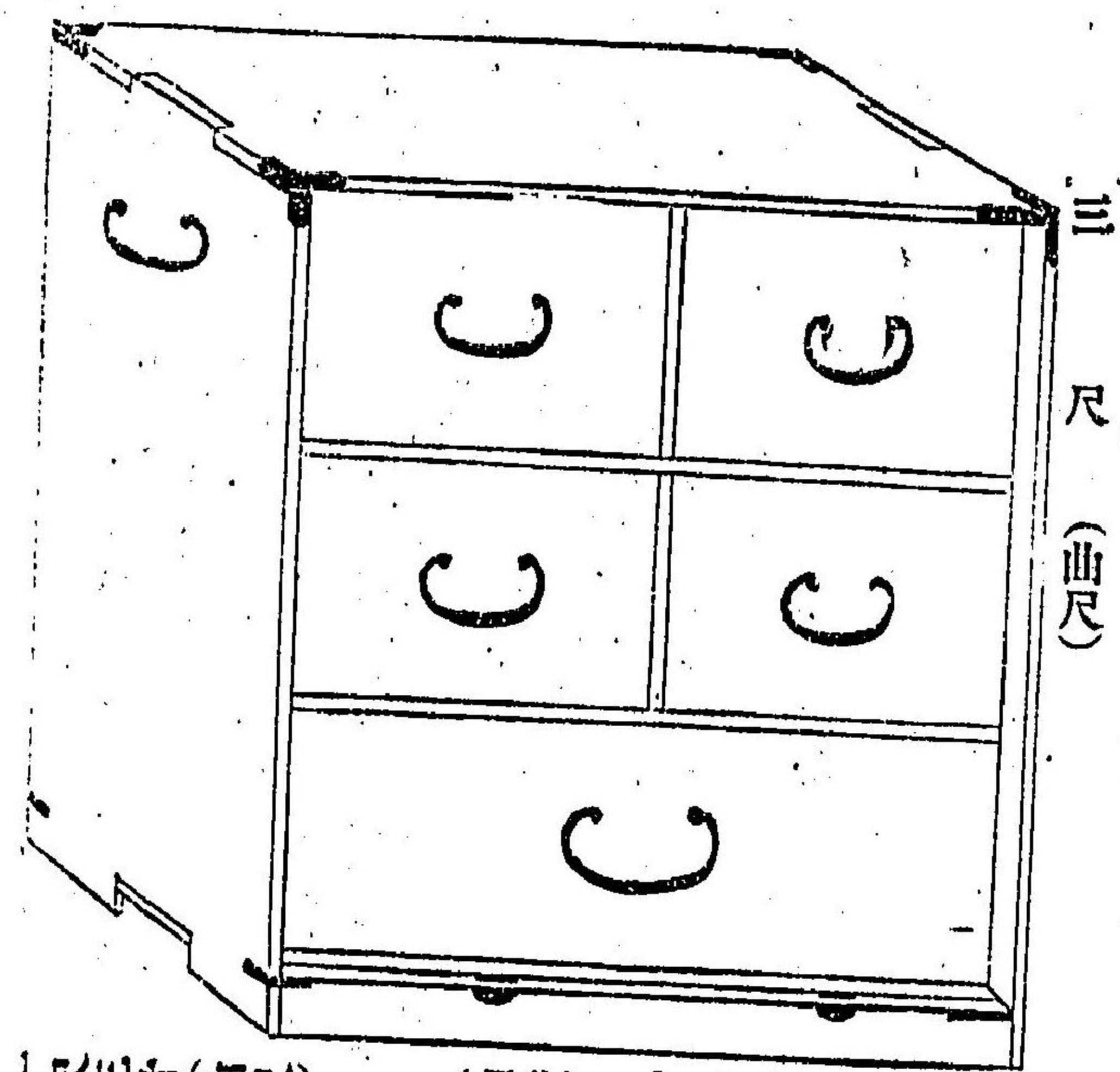
明治三十二年十二月 府令

百九十

訓

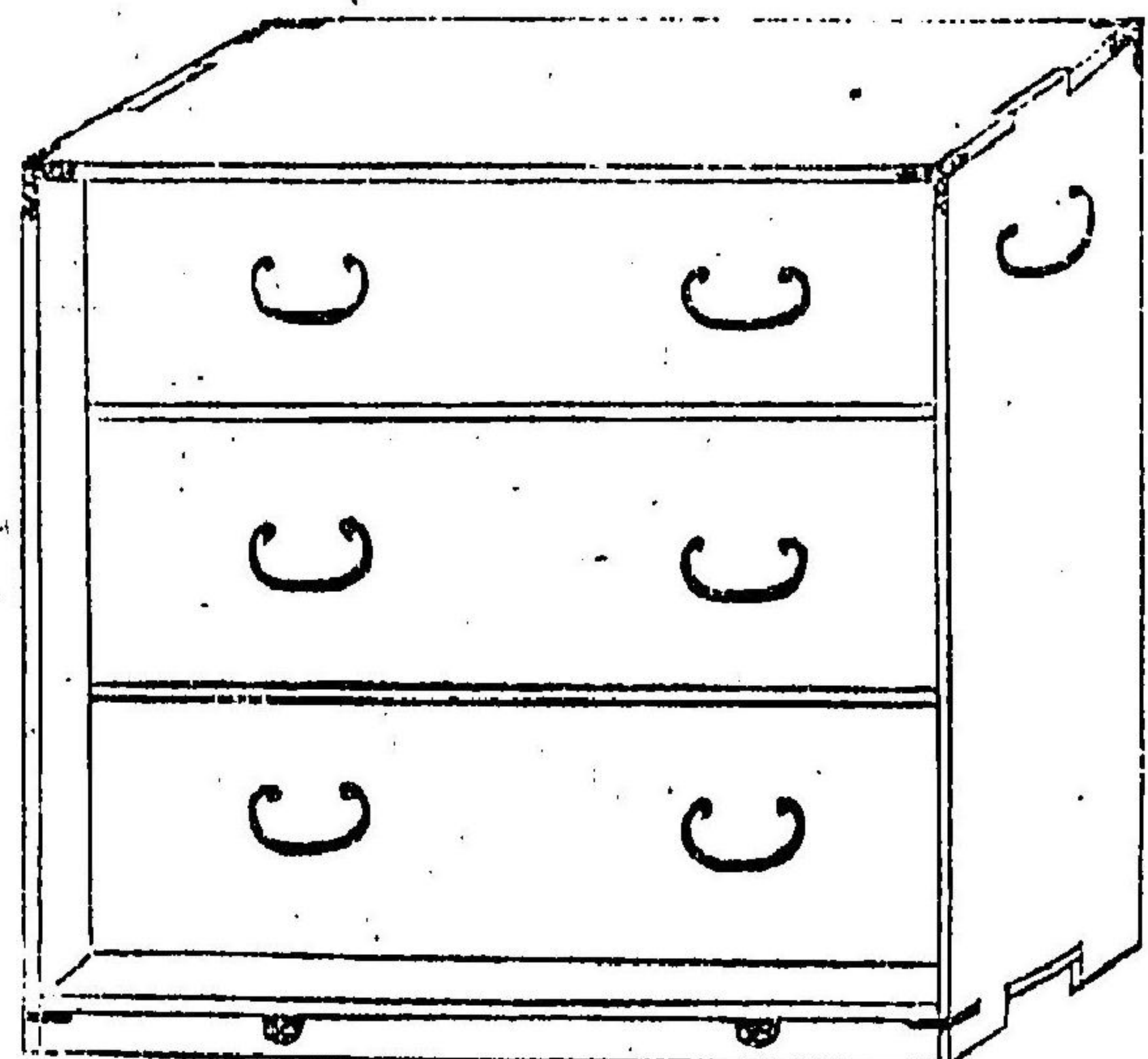
令

明治三十二年一月訓令



一尺四寸 (無尺) (尺曲) 寸六尺二

四



(尺曲) 寸五尺二 (無尺) 一尺四寸

○訓令第三號 十一月
海軍々軍人軍屬ニシテ明治廿七八年戰役ノ功ニ依リ一旦假賜ヲ受ケタル後再ヒ臺灣又ハ朝鮮地方
郡區役所
明治三十二年一月訓令

五

ニテ軍務ニ服シ戦死若クハ負傷後死歿又ハ之ニ準スヘキ者假令ハ警備調遣等ノ爲メ派遣セシ職及二十七八年戦役後初メテ臺灣地方ニテ軍務ニ服シ戦死若クハ負傷後死歿又ハ之ニ準スヘキ者ノ家名相續人若クハ遺族ノ調査ヲ要スル義有之候條明治三十年六月十八日當府訓令第百十九號ニ準シ届書并履歷書戸籍寫ヲ徴シ來ル二月二十八日限り當廳ヘ差出スヘシ

但遺族ハ本人死歿前ヨリ同戸籍内ニ在ル者履歷ハ海軍出身以來ノ分ヲ要ス

○訓令第四號 十一月 各郡役所

新祭管供御新穀獻納ノ義ハ農事獎勵ノ爲メ年次各郡老農ヲ選定シ來候處今後ノ順番及獻納ニ關スル事項左ノ如ク相定メ候條其期ニ該當スル郡ハ其郡長ニ於テ獻納者ヲ選定シ同年四月十五日迄氏名住所ヲ上申スヘシ

獻納新穀取扱ニ關スル要項

- 一 獻納品ハ知事宛獻納願書ヲ添ヘ所轄郡役所ヲ經テ其年十月十五日迄ニ本府内務部ヘ到達スヘキ様發送スヘシ
- 二 獻納品ハ初穂タルハ勿論耕作肥料等專ラ清淨ヲ旨トスヘシ
- 三 獻納品入箱ハ清淨ノ木材ヲ用ヒ新調スル事
- 四 獻納品ニ係ル諸費及所轄郡役所迄ノ運送費ハ獻納者ノ自辨トス
- 五 獻納品ノ種類乃チ米粟チ各郡ニ指定スルモ都合ニ依リ之ヲ變更スルコトアルヘシ

六 以上各項ハ郡役所ニ於テ獻納者ヘ憲示スヘシ

獻納者選定年次

愛宕郡	明治三十五年	精米一升	葛野郡	全	三十六年	精米一升
乙訓郡	全	三十七年	紀伊郡	全	三十八年	全
宇治郡	全	三十九年	久世郡	全	三十二年	全
級喜郡	全	三十三年	相樂郡	全	三十四年	全
南桑田郡	全	三十五年	北桑田郡	全	三十六年	精粟五合
船井郡	全	三十七年	天田郡	全	三十八年	全
何鹿郡	全	三十九年	加佐郡	全	四十年	全
與謝郡	全	四十一年	中郡	全	三十二年	全
竹野郡	全	三十三年	熊野郡	全	三十四年	全

○訓令第五號 十一月

明治三十年(十月)京都府訓令第二百三號警察署警察分署處務細則第二十五條第六樣式中左ノ通改正ス

(第六樣式)用紙大奉書八ツ切

明治何年何月何日

「何々ヲ命ス」又ハ「何々ヲ命ス」

印 署

巡査 氏 名

警察署 警察分署 監獄支署

○訓令第六號 十一月十六日

明治三十一年(二月)京都府訓令第九號囚人及刑事被告人押送心得第一條左之通り改正ス

第一條 瀛車瀛船ノ便アル管内地方間ノ押送ハ其便ヲ利用シ目的地迄管外ヘノ押送ハ隣府縣最

寄警察官署ニ直送スヘシ

(附照) 明治三十一年(二月)訓令第九號附錄

第一條 瀛車瀛船ノ便アル地方間ノ押送ハ其便ヲ利用シ途中ニ於テ故障ヲ限リハ下直下船セシムルコトナラズ目的地迄

直送スヘシ但一日ニシテ到着スルコト能ハサル地ハ此限リニアラス

○訓令第七號 十一月二十三日

一ワイロツプ

四寸廻リ四十等 此見積代金四拾圓

郡役所 市役所

但本年一月四日神戸市神戸港第一浮標沖合ニ沈没セシサ同市葺合村西本直太郎ナル者拾揚

右届出候ニ付心當リノ者ハ神戸市浦役場へ申出候様同縣ヨリ申越候條内國船難破及漂流物取扱規

則第三十條ニ依リ揭示ス可シ

○訓令第八號 十一月二十三日

郡役所 區役所 町村役場

明治三十三年當府甲第五十四號徵發事務取扱手續中左之通改正ス

一第十二條刪除

一第十三條中「九」ノ一字ヲ削リ「船舶」ノ二字ヲ「西洋形船舶及船用機關製造修理場表、鑄造工場

表」ノ二十一字ニ改ム

一第十四條中「拾」ヲ「八」ニ改ム

一第五號以下諸表ヲ別表ノ通改ム

(附照) 明治三十三年(十一月)甲第五十四號抄録

第十二條 前條附錄第三號ノ一表ハ左ノ項目ニ依リ取調フヘシ

一 表中第二行何郡(市)ハ京都市ニ於テハ京都市何區區ト記入スヘシ

二 家庭正内戸數ハ現在戸數ヲ掲クヘキモノニシテ其戸數トハ官廳寺院學校遺所水車場倉庫病院ヲ除クノ外人ノ現在住居スルト否トニ拘ハラス市區町村内ニ現在スル家屋ノ棟數ヲ云フ又家屋ノ全部若クハ幾部ヲ官廳學校等ニ使用スルモノモ本建ニ算入スヘシ

三 全宿舎用坪數ハ官廳學校等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘシ

四 寺院正内戸數ハ寺院内ニ堂座幾棟數アルモノ之レヲ分別セシ一寺院ヲ一軒トシ計算スヘシ

五 全宿舎用坪數ハ官廳學校等ニ使用スルモノヲ除キ計算スヘシ

六 全坪數ハ各學校ノ總坪數ヲ合算スヘシ

七 製造所ハ公立私立ノ別ナク又製造物品ノ種類如何ニ拘ハラス總テ掲クヘキモノトス

八 水車場ハ水車及蒸氣器械ノ別ナク一日一石以上ヲ揚升スル箇數ヲ記入スヘシ

九 病院正内戸數ハ病院内ニ病室幾棟數アルモノ之レヲ分別セシ一病院ヲ一軒トシ計算スヘシ

十 日本形船舶正内解流小廻ノ並ヘ日本形船舶五十石未満及倉庫船水田耕作用船及水災豫備船ヲ算入シ瀛船ニ非サル四洋形船舶二十噸以上ハ五十石以上ノ並ヘ二十噸未満ハ解流小廻ノ並ヘ朱魯列記スヘシ但游船艘船用船ハ表上スルニ及ハス

第十三條 區長町村長ハ第五六七八九號雜形ニ依リ船舶瀛船表ヲ製シ毎年一月二十五日限リ(區長ハ町村長ハ郡役所ヲ經テ

當廳ヘ町村長ハ郡役所ヲ經テ

第七號

用紙美濃紙

鐵工場表

人力ヲ以テ原動力トナス工場ハ本表ニ掲グルヲ要セス

京都市何區役所 何郡何町(村)役場

明治 何年 十二月三十一日調

名	所在地	持主	創設年	工場種	工場坪數	旋盤		原動力	馬力	機械器具ノ要領	職工數	右之外製造力及工程度ヲ示スヘキ要領
						種數	最大長					

用紙美濃紙

(場内最大事業ニ使用スル一日ノ總數ヲ掲クヘシ)

汽船表

(登簿噸數百噸以下ノモノハ本表ニ掲クルヲ要セス)

京都市何區役所 何郡何町(村)役場 明治 何年 十二月三十一日調

船名	本船原名	登簿噸數	船體材	橋樑數	網具	尺度		喫水	推進機	實馬力	全速力	石炭貯量	一晝夜消費量	持主	定航地方事務取扱所
						長	幅								

歩兵第三十八聯隊 京都聯隊區内 百五十一人
△ 二人

- 一 人員△印ハ三十年以前徴集未教育ノ者ナリ
- 二 召集員(現在人員)ヲ示スト唯トモ異動等ニ依リ増員スルトキハ其ノサ加ヘ召集スルモ
ノトス

○訓令第二十三號 十六日

郡役所 市役所

- 一 櫛 一本 此見積價代五拾圓
- 一 帆 楫 一本 參圓
- 一 針 金網 六本 六圓
- 一 ツリケン帆 切々 五圓
- 一 罾網切々 四筋 壹圓
- 一 ナシハ 三個 參拾錢

合計六品 此見積價代六拾五圓參拾錢

但本年一月十七日兵庫縣三原郡阿那賀村字戸崎海岸へ漂着セシ拾揚同郡同村長保管ス

右届出候ニ付心當リノ者ハ三原郡阿那賀村役場へ申出候様同縣ヨリ申越候條内國船難波及漂流物
取扱規則第三十條ニ依リ揭示スヘシ

○訓令第二十八號 二十三日

警察署 警察分署 監獄支署

巡查看守宿料支給規則左記ノ通相定ム

巡查看守宿料支給規則

第一條 看守及京都市ニ在勤スル巡査郡部警察署警察分署所在地ニ在勤スル部長内勤特務刑事ノ
勤務ニ服スル巡査ニハ宿料一月金壹圓ヲ支給ス但官舎居住ノモノハ此限ニアラス

第二條 左ノ場合ハ宿料日割ヲ以テ支給ス

- 一 看守及京都市ニ在勤スル巡査新任ノ際ハ發令ノ翌日ヨリ起算
- 二 郡部警察署警察分署所在地ニ在勤スル巡査就務ノ際ハ發令ノ翌日ヨリ起算轉務ノ際ハ發令
ノ當日ニテ打切ル
- 三 退職休職轉職ノ際ハ發令ノ當日ニテ打切ル
- 四 看守及京都市ニ在勤スル巡査復職ノ際ハ發令ノ當日ヨリ起算
- 五 死亡ノ際ハ其當日ニテ打切ル
- 六 市ヨリ郡へ郡ヨリ市へ及經費ノ負擔ヲ異ニスル部署(警察部五條警察署間共)へ貽替ノ際ハ
前ノ部署ニ於テ出發ノ當日ニテ打切り後ノ部署ニ於テ到着ノ翌日ヨリ起算但赴任期限ヲ過
キ出發セザルトキハ赴任期限ヲ以テ限界トス
- 七 官舎ヨリ他へ轉住スルモノハ其翌日ヨリ起算他ヨリ官舎へ轉住スルモノハ其當日ニテ打切
ル

第三條 豫備後備ノ軍籍ニアルモノ召集ノ節ハ出發ノ當日ヨリ歸着ノ前日マテ宿料ヲ支給セス
 第四條 宿料ハ每月末日之レヲ支給ス但休日ニ當ルトキハ繰上ケトス
 第五條 日割計算方ハ其月ノ現日數ニ依ル

附則

第六條 本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行ス
 第七條 本令ニ抵触スル従前ノ規則ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 ○訓令第二十九號 二十三日

警察署

明治三十一年(二月)京都府訓令第三十一號巡查給與品及貸與品規程中左ノ通改正刪除ス但本令ハ
 明治三十三年度ヨリ施行ス

第一條中「冬肌着二組八ヶ月一夏肌着二組四ヶ月」トアルヲ「一肌着一組三ヶ月」ト改正
 第三條中「夏肌着」ノ三字刪除

第四條中「給與品ハ現品ヲ以テス但下襟手套肌着靴下長靴短靴ハ代料ヲ以テ給與ス代料ヲ以テス
 ル給與品ノ金額ハ毎年度經費豫算配當表ヲ以テ之レヲ定ム」ト改正

第六條中「貸給品及使用期限ノ滿了セサル給與品ハ次期ノ給與又ハ退職休職轉職死亡經費ノ負擔
 ナリニスル部署(警察部五條警察署間共)ハ轉勤ニ際シ之レヲ返納スヘシ代料ヲ以テスル給與品ノ
 給與殘額亦同」ト改正

第八條中「代料ヲ以テスル給與品算出ノ方法ハ左ノ各項ニ基キ給與スル日數ニ給與額ヲ乘シ使
 用期限ノ總日數ヲ以テ除算シ給與金額ヲ定ム

- 一 任命ノ際ハ發令ノ翌日ヨリ起算
- 二 退職休職轉職ノ際ハ發令ノ當日ニテ打切ル
- 三 復職ノ際ハ發令ノ當日ヨリ起算
- 四 死亡ノ際ハ其當日ニテ打切ル
- 五 經費ノ負擔ヲ異ニスル部署(警察部五條警察署共)ハ轉勤ノ際ハ前ノ部署ニ於テ發令ノ當日
 ニテ打切り後ノ部署ニ於テ發令ノ翌日ヨリ起算
- 六 病氣引其他自己ノ便宜ニ依リ一回若クハ數回ニ互ル缺勤日數ヲ通算シ其使用期限四分ノ一
 以上ニ及フトキハ其日數ヲ除ク
- 七 豫備後備ノ軍籍ニアルモノ召集ノ際ハ出發ノ當日ヨリ歸着ノ前日マテノ日數ヲ除ク」ト改
 正

參照(明治三十一年二月訓令第三十一號)抄録

第一條中「冬肌着二組八ヶ月 一夏肌着二組四ヶ月」

第三條中給與品ノ使用期限ハ明治三十一年四月一日ヲ以テ起算トス但夏服日晝夏肌着ハ明治三十一年六月一日トス

○訓令第三十號 二十三日

郡役所 市役所 區役所 町村役場

明治十八年十二月乙第二百六號種痘規則及細則取扱手續中左ノ通改正ス

前書中「京都市上下京區役所」トアルヲ「市役所」ト改ム

第一中「郡區内」トアルヲ「郡市内」ト改ム

第五中「市ハ區役所郡ハ町村役場」トアルヲ「市役所町村役場」ト改ム

第六中「戸長役場」トアルヲ「市役所町村役場」ト改ム

題目「市ノ區役所町村役場心得」トアルヲ「市役所町村役場心得」ト改ム

第一中「市ノ區長及町村長」トアルヲ「市町村長」ト改ム

第十中「第二部」ノ三字ヲ削ル

第一號書式中「市ハ區長郡ハ町村長檢印」トアルヲ「市町村長檢印」ト改ム

第二號書式中「何郡區種痘明細表」トアルヲ「何郡市種痘明細表」ト改ム

第二號書式記載例中「市ノ區長又ハ町村長」トアルヲ「市町村長」ト改ム

○訓令第三十六號 二二七

郡役所

郡吏員及郡役所給仕小使ノ臨時賄料左ノ通改定シ本年四月一日ヨリ施行ス

郡吏員 一度金參錢五厘 一給仕小使 一度金貳錢五厘

(參照)明治三十一年(五月)訓令第五十六號抄録

郡吏員 一度金五錢 給仕小使一度 金貳錢五厘

○訓令第三十七號 二二七

郡役所 市役所

左記ノ物件本月一日岡山縣兒島郡玉野村沖合ニ漂流セルヲ同郡長濱村大字大島八木菊藏拾得候ニ

付心當ノ者ハ同村役場へ申出候様指示方取計ヲ可シ

記

一傳馬船 一艘 但長二間 此見積代價金貳拾圓

○訓令第三十八號 二二七 郡役所(山城ヲ除ク)警察署(全)警察分署(全)

明治三十二年度ニ於テ前年徵集ノ内未教育者及三十一年徵集ノ騎兵、砲兵、工兵、輜重兵、砲兵助
率、縫工、靴工、第一補充兵教育召集ヲ行フ旨第十師團長ヨリ通知アリ其召集區分左ノ如シ此旨心
得

第一補充兵教育召集區分

聯隊別	兵種	騎兵		砲兵		工兵		靴工		縫工	
		召集人員	召集日數	召集人員	召集日數	召集人員	召集日數	召集人員	召集日數	召集人員	召集日數
福知山	騎兵	騎兵第十聯隊	四月一日	騎兵第十聯隊	四月一日	工兵第十大隊	四月一日	靴工第十聯隊	四月一日	縫工第十聯隊	四月一日
		騎兵第十一聯隊	四月九日	騎兵第十一聯隊	四月九日	工兵第十一大隊	四月九日	靴工第十一聯隊	四月九日	縫工第十一聯隊	四月九日
福知山	砲兵	砲兵第一聯隊	四月一日	砲兵第一聯隊	四月一日	工兵第一聯隊	四月一日	靴工第一聯隊	四月一日	縫工第一聯隊	四月一日
		砲兵第二聯隊	四月九日	砲兵第二聯隊	四月九日	工兵第二聯隊	四月九日	靴工第二聯隊	四月九日	縫工第二聯隊	四月九日

- 一 本表掲載ノ人員ハ豫定員トス
- 二 各聯隊區ニ在テハ本表豫定人員ニ拘ラス前年徴集ノ内未教育者及三十一年徴集現在員悉皆サ召集スルモノトス

○訓令第三十九號 三十七日

郡役所 警察署 監獄支署 府立學校 療病院 醫學校 蠶蠶院 蠶蠶所 市役所 府金庫
 府金庫事務取扱規程別冊ノ通相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス
 (別冊)

府金庫事務取扱規程

- 第一條 府金庫第一部、第三部ハ本府ノ指定スル個所ニ各支所ヲ置クヘシ
- 第二條 前條ノ支所ニハ其本所ノ責任ヲ以テ相當ノ仕拂基金ヲ備フヘシ
- 第三條 府金庫第二部、第三部ノ本所ハ本廳ヘ第一部本所ハ本廳、監獄署及療病院醫學校ヘ日々取扱人ヲ差出スヘシ
- 第一部ノ本所、支所、第二部及第三部ノ支所ハ支部局長ト協定シ毎月五日以内取扱人ヲ各支部局ニ差出スヘシ
- 第四條 府金庫各部ハ照合ニ供スル爲メ本廳及各支部局ニ其印鑑及取扱人等ノ印鑑ヲ差出スヘシ
 出納ニ關係セル吏員ノ印鑑ハ本廳及各支部局ヨリ申受クヘシ

第五條 府金庫各部ニ於テ納入ヨリ徵稅令書、納付書若クハ納入告知書ヲ添ヘ現金ヲ拂込ミタルトキハ之ヲ受領シ該書ニ接續セル現金受領濟證ニ式ノ如ク記入捺印シ徵稅令書、納付書、納入告知書ハ各部ニ留置シ其現金受領濟證ヲ、領收證書接續ノ健納人ニ交付スヘシ

第六條 府金庫各部ニ於テ支部局長ヨリ現金拂込書ヲ添ヘ現金ヲ拂込ミタルトキハ之ヲ受領シ該書ニ接續セル領收證書ニ式ノ如ク記入捺印シ現金拂込書ハ各部ニ留置シ其領收證書ヲ支部局長ニ交付スヘシ

第七條 府金庫第一部ノ本所及第二部ニ於テ支部局長ヨリ其收入金ヲ受領セルトキハ一旬ノ初日ヨリ第一號式ノ報告書ヲ製シ其前旬ノ收入金額ヲ本廳ニ報告スヘシ但一支部局ノ收入金額參百圓ニ達シタルトキハ該期限ニ拘ハラス其時々直ニ之ヲ報告スヘシ

第八條 府金庫第一部及第三部ノ支所ニ於テ支部局長ヨリ其收入金ノ送金通知書ヲ受ケタルトキハ第二號式ノ送金書ニ添ヘ即日現金ヲ本所ニ回送スヘシ但第三部ノ支所ハ郡役所ノ現金ヲ回送スルトキ本廳ノ發シタル返納告知書ニ依リ受領セル現金ヲ保管スルトキハ併テ之ヲ回送スヘシ本所ニ於テ前項ノ送金ヲ受ケタルトキハ第三號式ノ報告書ヲ製シ本廳ニ報告スヘシ但第三部ノ本所ニ於テハ回送金ノ内市郡連帶地方稅經濟ノ收入ニ屬スルモノアルトキハ第四號式ノ現金拂込書ヲ添ヘ直ニ該現金ニ第一部ノ本所ニ拂込ムヘシ

第一部ノ本所ニ於テ前項但書ニ依リ現金ノ拂込ミヲ受ケタルトキハ第六條及第七條ノ例ニ準シ

之ヲ取扱フヘシ

第九條 府金庫各部ハ仕拂切符ノ持參人ニ仕拂切符ト案内仕拂切符トヲ對照シ金額其他相違ナキトキ仕拂ヲ爲スヘシ但仕拂濟ノ後仕拂切符案内仕拂切符ニ其年月日等ヲ記入シ置クヘシ仕拂濟仕拂切符ハ日々所屬ノ本廳又ハ支部局ニ提出シ檢閱ヲ受クヘシ

左ノ場合ニ於テハ事由ヲ仕拂切符ノ持參人ニ告ケ其仕拂ヲ猶豫スヘシ

一 仕拂切符ト案内仕拂切符ト符合セザルトキ

二 仕拂切符汚損ノ爲メ案内仕拂切符ト照合シ難キトキ

三 案内仕拂切符ノ未ダ到達セザルトキ

四 仕拂期限ヲ經過セシ仕拂切符ヲ持參セルトキ

仕拂切符又ハ仕拂切符ノ持參人ニ疑ヲ措キタルトキハ仕拂ヲ猶豫シ置キ直ニ其事由ヲ通告シテ指揮ヲ附フヘシ

仕拂切符ノ所有主ヨリ紛失ノ届書ニ現金仕拂未濟等ノ證明ヲ附フトキハ其事實ヲ同札ニ證明シ與フヘシ

第十條 府金庫各部ニ於テ送金ヲ要スヘキ仕拂切符ヲ受取リタルトキハ直ニ第五號式ノ領收證書ヲ差出スヘシ
前項ノ仕拂切符ハ其責任ヲ以テ銀行ノ爲メ換取組先アル地ニ於テハ其取組先向ケ、其他ハ送金手

形又ハ郵便爲換、通運等便宜ノ方法ニ依リ仕拂ヲ爲スヘシ但第一部及第三部ニ於テ其本所若クハ支所ノ所在地ナルトキハ該本所若クハ支所ヲシテ仕拂ヲ爲サシムヘシ

第十一條 府金庫各部ニ於テ返納人ヨリ返納告知書ヲ添へ現金ヲ拂込ミタルトキハ之ヲ受領シ該書ニ接續セル現金受領濟證ニ式ノ如ク記入捺印シ返納告知書ハ各部ニ留置キ其現金受領濟證ヲ領收證書接續ノ儘返納人ニ交付スヘシ

第十二條 府金庫各部ハ翌月十日ニ至リ其前月中受領セル案内仕拂切符ニシテ現金仕拂未濟ノモノアルトキハ之ヲ發行セシ本廳若クハ支部局ニ通知スヘシ送金ヲ要スル仕拂切符ニシテ翌月二十日ニ至リ送金スルコトヲ得サルモノアルトキ亦同シ

第十三條 府金庫第一部ノ本所及第二部ニ於テ支部局長ヨリ仕拂殘額等ノ返納通知書ヲ受ケタルトキハ第七條ニ準シ之ヲ取扱フヘシ第一部及第三部ノ支所ニ於テ前項ノ返納通知書ヲ受ケタルトキハ第八條第一項ニ、本所ニ於テ支所ヨリ其送金ヲ受ケタルトキハ同條第二項ニ準シ之ヲ取扱フヘシ

第十四條 府金庫各部ハ徵稅令書、納付書、納入告知書、現金拂込書、仕拂切符、案内仕拂切符其他返納告知書等ヲ毎月分類シ合計金額及枚數ヲ表記シ帳簿ト照合ノ上證憑書類トシテ之ヲ保存スヘシ

第十五條 府金庫第一部ノ本所、第二部、及第三部ノ本所ハ左ノ帳簿ヲ備へ日々其出納ヲ登記ス

明治三十二年二月訓令

三十四

領收證書

明治何年何月何日通知 至何月何日何日收入金

一金何程

右領收候也

明治何年何月何日

府金庫第一本所 何 銀行

第五號式 (用紙半紙)

第何號

領收證書

金額	番	號	受取人氏名
第何號	第何號	第何號	某某
合計			某某

此任拂切符合何枚

右金額番號ノ任拂切符正ニ領收候追テ正當受取人ノ領收證書ト引換可申候也

府廳地方稅

第六號式ノ一

明治何年何月何日 第四課長(又ハ支部局長)宛

府金庫第何部(又ハ本支、所)

何銀行(又ハ何支店等)宛

年月日	摘要	受	拂	残
明治何年何月何日	受高	690950		
何年何月何日	拂高		185000	514950
何年何月何日	ノ		140000	374950
何年何月何日	ノ		6000	368950
何年何月何日	ノ		1200	367750

備考

一 左ノ各口座ノ股ケ配帳整理スルヲ要ス但現金ノ口座ハ以下各口座ノ總括ニ當ル

第一部 現 府廳地方稅金

第二部 現 府廳地方稅金

第三部 現 府廳地方稅金

二 前項何支部局ノ口座(區役所ノ口座ヲ除ク)ハ尚左ノ各口座ヲ股ケ

雜收 部收 金入 費

明治三十二年二月訓令

三十五

第九號式

年月日	摘要	受		拂		残	
		圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年 何何	受高(本所ヨリ備付高)	185	000			185	000
何	拂高(何支部局預リニ振換)			150	000	35	000

備考

一 支所ニ於テ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ之ヲ
 二 前項ニ反シ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ現金受
 三 拂出シタルトキハ之ヲ本所ニ受入ルヘシ但領收証書到達ノ上之ヲ行フ
 四 本所ニ於テ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ之ヲ
 五 前項ニ反シ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ現金受

本 所

年月日	摘要	受		拂		残	
		圓	銭	圓	銭	圓	銭
明治何年 何何	受高	699	950			699	950
夕	拂高(何支所へ備付高)			185	000	514	950
何	拂高			140	000	374	950
何	夕			6	000	368	950
何何	夕			1	200	367	750

備考

一 左ノ各口座ヲ設ケ帳簿整理スルヲ要ス
 二 府廳日々ノ仕拂金ハ本帳ニ登記スヘキモノトス本所ノ取扱ニ關ス
 三 各支所ノ仕拂金亦同シ
 四 當日之本帳ニ登記セシメハ本帳ニ於ケルト各支部局トサ間ハス
 五 本所ニ於テ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ之ヲ
 六 前項ニ反シ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ現金受
 七 本所ニ於テ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ之ヲ
 八 前項ニ反シ本所又ハ他ノ支所ノ第十條ノ送金ヲ仕拂ヒタルトキハ現金受

明治何年何月何日
京都府廳現金計表

第十號式

類別	受			拂			殘		
	前日越前	本日突給	計	前日越前	本日突給	計	前日越前	本日突給	計
何地方稅	366,650	0	366,650	1,200	0	1,200	367,750	4,000	363,750
何	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	568,950	0	568,950	1,200	0	1,200	367,750	4,000	363,750
			擔保品價						
			380,000						
			差引過						
			12,250						

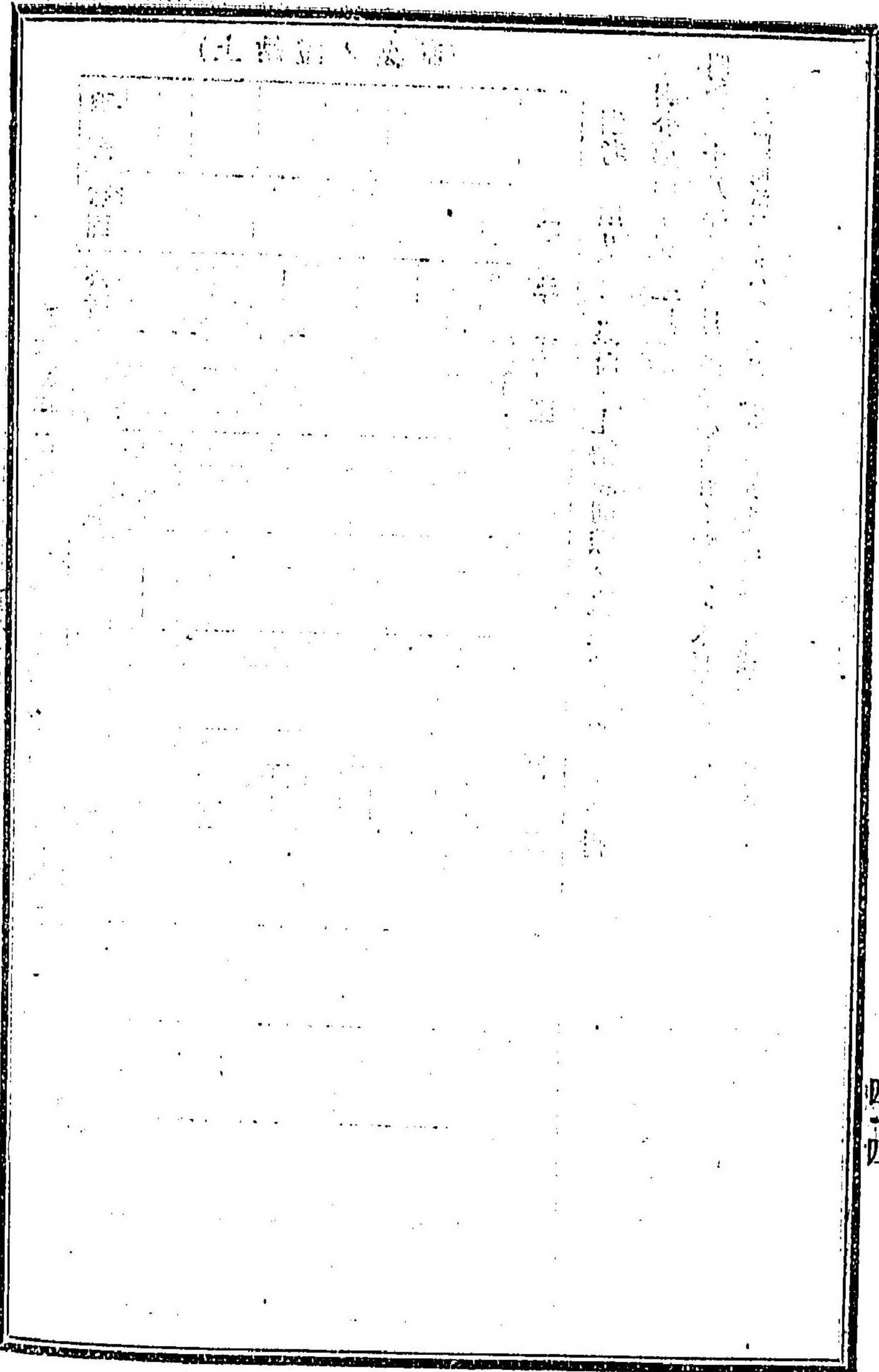
書面之通相違無之候也。

府金庫第何部何銀行印

伊勢之警察時限之匯單

類別	受			拂			計		
	前日越前	本日突給	計	前日越前	本日突給	計	前日越前	本日突給	計
何	4,000	0	4,000	0	0	0	51,500	0	51,500
何	0	0	0	1,200	0	1,200	0	1,200	1,200
合計	4,000	0	4,000	1,200	0	1,200	51,500	0	51,500

表提否現係何部何



○訓令第四十一號 三 日 月

郡役所

明治二十七年訓令第七十七號郡役所處務規程第八條ヲ左ノ通改正ス

經由文書ニシテ制規上副申ヲ要セサルモノ及副申スヘキモノニシテ格別ノ意見ナキモノハ其文書ノ欄外適宜ノ箇所ニ左式ノ印ヲ押捺シテ進達スヘシ

明治 年 月 日 進達

其郡役所

(参照) 明治二十七年(八月)訓令第七十七號抄録

第八條 郡役所ヲ經山スル文書ニシテ制規上副書ヲ要セサルモノハ其文書ノ右傍欄外へ郡長捺印ノト進達スヘシ其別段ノ事情アルモノハ意見ヲ具申スヘシ

○訓令第四十七號 九 三 日 月

郡役所 山城ヲ 警察署同 警察分署同

本年當府訓令第三十八號第一補充兵教育召集區分表中騎兵輜重兵砲兵助卒縫工靴工ヲ削除ノ旨第十師團長ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

○訓令第四十八號 九 三 日 月

郡區役所 丹波丹後 警察署同 警察分署同

騎兵砲兵工兵輜重兵第一補充兵ニシテ明治三十一年徵集ノ者及同年前徵集ノ者ニシテ未教育ノ者教育召集ヲ行フ旨第四師團長ヨリ通知アリ其召集豫定人員表左ノ如シ此旨心得ヘシ

第一補充兵教育召集豫定人員表

兵	種	令	召	入	員	隊	區	種	第一補充兵
									京
騎兵	砲兵	工兵	輜重兵	四月一日 九十月					計
騎兵第四聯隊	野戰砲兵第四聯隊	工兵第四大隊	輜重兵第四大隊	員	集	召			
二	一三	△一八	一						二四

一 本表ノ如ク召集員(現在員ナリ)ヲ示スト雖モ異動等ニ依リ増員スルトキハ其レヲ加ヘ召集スルモノトス

二 △印ヲ付スルモノハ三十年以前徴集ノ未教育者ナリ

警察署

○訓令第四十九號 九三 日

巡查懲罰及賠償金月俸十分一以上ナルトキハ月々其月俸十分一ツ、徴收スヘシ但明治十五年二月警第二十二號ハ廢止ス

(參照) 明治十五年(二月)警第二十二號ハ巡查懲罰金月俸十分一以上ナルトキハ月々其月俸十分一ツ、扣除スヘキ件ナリ

○訓令第五十號 九三 日

警察署

巡查ニシテ職務上刑事裁判ノ證人トナリ裁判所ヘ出頭又ハ執達吏ノ請求ニ依リ證人トシテ立會セシトキ受取リタル旅費日當ハ地方稅雜收入ヘ納付シ警察廳雜入不用品賣却代ノ次ヘ雜收ノ節ヲ設ク整理スヘシ但明治十七年十月本甲第二百八號ハ廢止ス

(參照) 明治十七年(十月)本甲第二百八號ハ巡查ニシテ刑事裁判證人トナリ裁判所ヘ出頭シ旅費日當被告入ロリ受取タルトキハ地方稅雜收入ニ組入上納スヘキ件ナリ

○訓令第五十一號 九三 日

郡役所 警察署 監獄支署 府立學校 療病院醫學校
 縣醫院 縣役所 市役所

本府會計規則ニ附屬スル様式別冊ノ通り相定メ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

(別冊)

第一號式 用紙縦六寸五分ノモノ三枚接續 輪廓適宜	
符切拂仕内案	符切拂仕
第何號 一金 但 右金員任拂切符本日發行ス 明治 年月 日 京都府内務部第四課長(又ハ支)氏名 府金庫第何部(又ハ本、支所)中	第何號 一金 但 右金員此切符引換ニ現金相渡スヘシ 明治 年月 日 京都府内務部第四課長(又ハ支)氏名 府金庫第何部(又ハ本、支所)中
原	符
第何號 一金 但 明治 年月 日 任拂切符發行 府金庫第何部(又ハ本、支所)ニ於テ仕拂	第何號 一金 但 明治 年月 日 任拂切符發行 府金庫第何部(又ハ本、支所)ニ於テ仕拂
受取人	受取人
備考 金額ノ内納金(遺族扶助法納金、懲罰金ノ類)引去高	

第二號式 用紙縦六寸五分ノモノ二枚接續 輪廓適宜	
アルトキハ左ノ如ク記載スルモノトス 一金 何程 内金 何程 現金支給高 何引去高 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員、現金前渡ヲ受クル吏員ノ所用トス	
符切拂仕金送要	符切拂仕
第何號 一金 但 右金員領收證書ト引換ニ現金相渡スヘシ 明治 年月 日 京都府内務部第四課長(又ハ支)氏名 府金庫第何部(又ハ本、支所)中	第何號 一金 但 明治 年月 日 任拂切符發行 府金庫第何部(又ハ本、支所)ニ於テ仕拂
原	符
第何號 一金 但 明治 年月 日 任拂切符發行 府金庫第何部(又ハ本、支所)ニ於テ仕拂	第何號 一金 但 明治 年月 日 任拂切符發行 府金庫第何部(又ハ本、支所)ニ於テ仕拂
受取人	受取人
備考 納金引去高アルトキハ第一號式ノ例ニ依ルモノトス 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員、現金前渡ヲ受クル吏員ノ所用トス	

明治三十二年三月 訓令

五十

第三號式ノ一 用紙適宜

<p>要 摘</p> <p>何年度要送金仕拂切符第何號</p> <p>一金何程</p> <p>右金額拂渡方本日府金庫第何部へ通知置候條受取ノトキハ左欄へ年月日ヲ記入シ署名捺印ノ上交付セラルヘシ</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>京都府内務部第四課長氏名印</p> <p>氏 名 殿</p> <p>前書ノ金額領受候也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>府金庫第何部</p> <p>受取人 氏 名</p> <p>備考 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員ノ所用トス</p>		<p>此金額ハ支部局長ニ於テ受領シ直ニ預入書ヲ添へ其金庫へ保管預ト爲スヘキモノナレハ府金庫ハ此通知書ニ對シ現金ヲ交付スヘカラス</p>
--	--	---

第三號式ノ二 用紙適宜

<p>印紙貼 摘</p> <p>用ノ欄 要</p> <p>何年度要送金仕拂切符第何號</p> <p>一金何程</p> <p>右金額拂渡方本日府金庫第何部へ通知置候條之ト引換ニ現金ヲ受取ラルヘシ</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>京都府内務部第四課長氏名印</p> <p>氏 名 殿</p> <p>前書ノ金額領收候也</p> <p>明治 年 月 日</p> <p>府金庫第何部</p> <p>受取人住所 氏 名</p> <p>備考 摘要ノ欄ニハ算出ノ基ク所ヲ詳記シ事ノ複雑ニ涉ルモノハ仕譯書ヲ添フヘシ本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員ノ所用トス</p>		<p>受取人ハ府金庫ヨリ現金受取ノ際領收欄へ年月日ヲ記入シ證券印税規則ニ從ヒ印紙ヲ要スルモノハ貼用シ記名捺印ノ上之ヲ府金庫へ交付セラルヘシ</p>
--	--	---

明治三十二年三月 訓令

五十一

第三號式ノ三 用紙適宜

金額氏名表

要送金仕拂切符第何號	
一金 何 程	受取人 何某外何人渡
内 譯	
金 何 程	何 某
金 何 程	何 某
金 何 程	何 某
金 何 程	何 某
金 何 程	何 某

備考 收入ニ向テ一ノ送金通知書ヲ發スルトキハ本表ヲ添付スヘシ
 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員、現金前渡ヲ受クル吏員ノ所用トス

第四號式 用紙適宜

備考 適宜ノ割印簿ヲ製シ割印ノ上發付スルモノトス 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員ノ所用トス	
書 告 入 納 甲 第何號 氏 名 納 明治何年度	書 知 告 入 納 右何年何月何日限リ當座ニ納付スル 京都府知事氏名 明治何年何月何日
證 領 受 金 現 乙 第何號 氏 名 納 明治何年度	證 領 受 金 現 右現金受領濟 京都府金庫第何部 明治何年何月何日
書 收 領 丙 第何號 氏 名 納 明治何年度	書 收 領 右領收候也 京都府内務部第四課長氏名 明治何年何月何日

第五號式 用紙適宜

書知納返 甲 第何號 氏 名納 明治何年度 一金何程 右何年何月何日限、當廳へ納付ス、 明治何年何月何日 京都府知事氏名(印)		現金受領書 乙 第何號 氏 名納 明治何年度 一金何程 右現金受領書 明治何年何月何日 京都府金庫第何部		領收書 丙 第何號 氏 名納 明治何年度 一金何程 右領收帳也 明治何年何月何日 京都府内務部第四課長氏名(印)	
--	--	---	--	---	--

備考 適宜ノ糊印簿ヲ製シ糊印ノ上發付スルモノナシ
 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員ノ所用トス

第六號式

用紙適宜

現金拂込書 甲 第何號 氏 名納 明治何年度 一金何程 右拂込候也 明治何年何月何日 京都府内務部第四課長氏名(印)		領收證書 乙 第何號 氏 名納 明治何年度 一金何程 右領收候也 明治何年何月何日 京都府金庫第何部	
---	--	---	--

備考 本式ハ會計事務ヲ管理スル吏員ノ所用トス

○訓令第五十四號 十三日
 赤痢病ノ流行スルヤ早キハ初夏ノ時ニ於テスル者アリ故ニ之カ豫防ノ措置ハ春暖ノ候未タ患者ノ
 發生セサル時ニ於テ各般ノ準備ヲ整ヘ注意ヲ密ニシ以テ發生ニ際シ周章狼狽ノ動作ナカラシムコト
 ナ要ス其初メテ發生スルヤ全ガ力ヲ盡シテ之ヲ制壓スルノ策ヲ施シ既ニ流行蔓延スルニ至ラハ各般
 ノ豫防法ヲ厲行スルト同時ニ專ラ意ヲ救治ニ注キ其漸ク終熄ニ傾キシ以後ハ更ニ善後ノ策ヲ講セ
 サルヘカラス斯ノ如ク豫防ノ策策ハ其流行ノ時期ニ應シテ自ラ異ナラサルヲ得ス仍テ本年ノ赤痢
 病豫防ハ左記方針ニ依リ嚴密ニ措置スヘシ

第一期 準備ニ關スル處置

- 一 市町村ニハ豫テ豫防委員設置ノ準備ヲ爲ス事
- 一 郡市検査委員郡市役所ハ町村吏員豫防委員駐在所巡查又ハ衛生委員等ヲ最寄ノ場所ニ召集シ
 左ノ事項ヲ協議講習及實地演習スル事
 - 一 消毒薬ノ溶解法使用法并應用
 - 二 消毒器具ノ使用法并應用
 - 三 一般消毒方法汚濁方法ノ施行手續
 - 四 患者死者ノ取扱手續
 - 五 病院病舎ノ取締方法
 - 六 隠蔽患者發見ノ手段
 - 七 其他必要ノ事項
- 一 町村ハ豫防委員ニ加フヘキ醫師ヲ豫選シ置ク事

- 一 市町村長ハ衛生組長ニ注意督勵ヲ加フル事
 - 一 病院病舎ハ掃除ノ修理ヲ何時開クモ差支ナキ様諸般ノ準備ヲ爲ス事
 - 一 病院病舎ナキ町村ハ之ニ充用スヘキ家屋ヲ豫定シ置ク事
 - 一 市町村ハ消毒器具藥品ヲ十分整備スル事
 - 一 町村ハ看護婦及人夫等ノ豫約ヲ爲シ置ク事
 - 一 一般ニ清潔方法ヲ施行シ之カ維持方ヲ講スル事
 - 一 検査委員又ハ郡吏ハ其部内ヲ巡回シ市町村ニ於ケル各般ノ準備ノ整否ヲ監査シ完備ヲ期スル事
 - 一 鑛山製造所其他工業場ヘ特ニ注意ヲ與ヘ必要ノ設備ヲ促ス事
 - 一 衛生講話會幻燈會等ノ手段ヲ以テ個人ノ注意ヲ喚起スル事
- 第二期 初發ニ際スル處置
- 一 發病地ニハ毎ニ検査委員ヲ派シ懇篤當該吏員ヲ教導指示シ各般ノ處置ニ疎漏ナカラシムル事
 - 一 發病部落ニハ嚴重ニ各戸檢診法ヲ行ヒ隠蔽ヲ防止スル事
 - 一 衛生組合ニ規約ノ履行ヲ促ス事
 - 一 河川ノ使用ニ注意スル事
 - 一 旅人ノ往來ニ注意スル事
 - 一 巡禮乞食等ノ徘徊ニ注意シ之ヲ諭示制限スル事

手 數 料	金額		手 數 料	金額	
	人員	金額		人員	金額
雜 收 入			合 計		
合 計	人員	金額	人員	金額	

備考

一 町村組合ニ於テハ其組合ヨリ直接賦課スル町村税及其他ノ收入ニ就テノミ調査スルモノトス

二 市及町村ノ區ニ係ルモノハ市又ハ町村ノ分ト合算スルモノトス

三 一人ニシテ數課目ニ涉ルトキハ金額最多キ課目ノ人員數ニノミ計ヘ他ノ課目ノ人員數ニハ米ニテ協書スルモノトス

四 滞納處分ナキ町村名ハ郡役所ノ集計表備考ニ付記スルモノトス

五 税外收入ハ授業料手数料ノ外雜收入ニ包括スヘキモノトス

(參照) 明治二十四年(九月)訓令第三十七號ハ町村税其他町村收入不納者處分ノ景況報告ノ件ナリ

○訓令第五十九號 三十三日

郡役所 警察署 監獄支署 府立學校 療病院醫學校 驅蠱院 驅蠱所

明治二十八年(五月)訓令第八十六號各支部局物品會計規程第四條ヲ左ノ通改正シ第五條以下雜書式番號ヲ順次繰下ケ明治三十二年度ヨリ施行ス

第四條 物品ノ出納授受ハ總テ支部局長ノ命令ニ依リ左ノ帳簿ヲ設ケ之レニ照シ取扱フヘシ

物品購入簿 (第一號式)

物品請求簿 (第二號式)

第一號式

物品購入簿

何支部局

購入命令	物品受入命令	品目	數量	單價	金額	購入先	代金支拂	摘要	回任
月日	月日						月日		
四月一日	四月五日	美濃紙	三〇	〇.150	三,〇〇〇	何郡何市(町村)	四月廿五日	現在ノ有無及購入ヲ必要トスル理由	①
月日	月日						月日		
月日	月日						月日		
月日	月日						月日		

ニ溝堰破損セサルノ益アリ

三 各種ノ道路ハ車道牛馬道作場道等何レモ直線ニシテ且其廣狹ハ便宜之ヲ定ムルカ故ニ作業ノ往來其他運搬等ハ最モ至便ナリ

四 屈曲不整ノ畦畔ヲ改メ井然一定ノ畦畔ニ變更シタル結果ハ牛馬耕ヲ施行シ勞費ヲ省クノ功アリ

五 從來ノ水路ハ迂回蜿蜒長距離ニ渉ルモノ多ク故ニ其途中ニ於テ徒ニ水量ヲ消散セルモノ多クカササル爲メ發水ニ不足ヲ感スルコトアリ然ルニ田區改正ノ結果ハ水ノ供給ヲ増シ改正區劃外ノ田地ヲモ給養スルノ徳アリ

六 田區改正ニ要スル經費ハ増歩ノ地所代價ヲ以テ凡ソ之ヲ償フニ足ランハ己ニ乙訓郡羽束師村ニ實例アリ

田區改正ノ利ハ蓋シ以上ノ各項ニ止マラサルヘシ故ニ之ヲ實行セント欲セハ水利及地形上ニ關係セル各地主ヲシテ各自領末ノ事情ヲ排シ協同一致セシムルニ非ラザレハ目的ヲ達スル能ハス然レトモ創業ノ事ハ其順序ヲ要スルニ付本府ハ來年度ニ至リ各郡へ各二十町歩ノ摸範的田區改正ヲ爲サシムル爲メ府農會へ補助費ヲ下附シ併セテ之ヲ獎勵セシム依テ各郡ニ於テハ宜ク農家ヲシテ適宜ノ箇所ヲ選定シ府農會ニ請ヒ設計及實測圖ヲ造ラシメ尋テ之ヲ實行ヲ期シテ獎勵セラルヘシ

○訓令第六十四號 三十七日

郡役所 市役所 町村役場

客年(四月)訓令第九號地方稅徵收ニ關スル事務取扱手續第一號式中摘要ノ欄内地租額其他ノ記入式ヲ刪除ス

○訓令第六十五號 三十七日

警察署 警察分署 監獄支署

本年二月京都府訓令第二十八號巡査看守宿料支給規則第二條二號ノ次へ左ノ通り追加シ三號以下順次繰下ケトス

三 郡部警察署警察分署所在地ニ在勤スル巡査轉署ノ際ハ出發ノ當日ニテ打切ル

但赴任期限ヲ過キ出發セサルトキハ赴任期限ヲ以テ限界トス

四 郡部警察署警察分署所在地ニ在勤スル特務ノ勤務ニ服スル巡査ニシテ外勤ノ勤務補缺ノ際ハ其日數(外勤補缺ノ日ヨリ)ヲ除ク

○訓令第六十六號 三十七日

郡役所 警察署 警察分署 市役所

醬油稅則ヲ改正セシレ造石稅增加シ自家用醬油製造ニ制限ヲ設ケラレタルニ付テハ或ハ改正法律ノ趣旨ヲ體セス製造免許ヲ受ケス又ハ其中告ヲ爲サスシテ醬油ヲ製造シ爲メニ法律ノ制裁ヲ受ケル者ナキヲ保セス依テ此際一般ニ訓諭シ犯則ニ陷ルカ加キ者之ノナキ様厚ク注意セラルヘシ

○訓令第六十七號 三十七日

郡長 町村長

二十六年六月訓令第三十九號地租制限外其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル稟請

書ニ添付ノ歳入一覽表中地價割ノ附記ニ地租金若干アルハ地價金若干此百分ノ二ケ半若干ニ行ニ又括弧ノ内最近地租額若干アルヲ最近地價金若干此百分ノ二ケ半若干ト改ム

○訓令第六十九號 三十日

海軍召集事務取扱規程左ノ通定ム

海軍召集事務取扱規程

海軍召集事務取扱規程

郡區役所 警察署 警察分署 町村役場

- 第一條 召集ニ關スル文書ハ他ノ文書ト區別シ之ヲ保管スヘシ
- 第二條 條例 海軍召集條例ヲ云フ以下同シ 第十八條ノ召集令狀及第十九條ノ旅費證票ハ本府ニ在テハ各條ノ本文ニ依リ郡區長ニ於テ保管スルモノトス
- 第三條 充員召集令并演習召集令違書ノ文例ハ第一様式ニ條例第十五條ノ場合ニ於ケル軍事警報ハ第二様式ニ依ルモノトス
- 第四條 軍事警報ノ製作ハ陸軍々事警報ノ例ニ準ス
- 第五條 海軍豫備役後備役下士卒召集名簿ハ第三様式ニ依ルヘシ
- 第六條 町村長ハ豫備役後備役下士卒ノ員數及住所ノ遠近ニ應シ召集令狀ヲ配達スル使丁ノ受持及配達順序ヲ定ムル等最モ迅速ニ召集令狀ヲ交付シ得ヘキ方法ヲ豫定シ置クヘシ
- 第七條 細則海軍召集條例施行細則ヲ云フ以下同シ 第三十五條第二項ノ鎮守府司令長官ヨリ通知ヲ發シタル日トアルハ召集發令ノ日ニシテ演習召集ノ場合亦同シ

第八條 被召集人應召ノ際由ルヘキ經路并停車場名港名等ヲ記シタル付箋ヲ召集令狀ノ裏面ニ貼付シ置クヘシ

第九條 條例第二十二條第二十三條第三十三條第四十八條第六十三條細則第七條第八條ノ願屆書ハ郡長ヲ經由スヘシ但條例第六十三條ノ事由屆書ニシテ照呼執行日時切迫ノ時ハ經由ニ及ハス此場合ニ於テハ町村長ハ屆書ノ事由ヲ郡長ニ報告スヘシ

第十條 郡區長ハ豫備役後備役下士卒中死亡シタル者若クハ第一國民兵役ニ入りタル者又ハ兵役ヲ免セラレタル者等アルトキハ其召集令狀及召集用封筒旅費證票ヲ速ニ海兵團長ニ返付スヘシ

第十一條 町村長充員召集令狀又ハ演習召集令狀ヲ交付シ終リタルトキハ細則第四條ノ手續ヲ爲サシメタル召集用封筒ヲ取廻シ其洩レナク通達セシヤ否ヲ調査シ速ニ郡長ニ送付スヘシ但失踪其他ノ爲交付シ能ハサル者アルトキハ其事由及人名ヲ郡長ニ報告スルト同時ニ召集令狀及召集用封筒ヲ返付スヘシ

第十二條 條例第四十七條但書又ハ細則第四十條第二項但書ニ依リ交付セザリシ召集令狀及遂ニ交付シ能ハカリシ召集令狀並其召集用封筒旅費證票ハ郡區長之ヲ海兵團長ニ返付スヘシ

第十三條 郡區長ハ充員召集令狀又ハ演習召集令狀ヲ交付シタル者ノ人名並事故アリテ之ヲ交付シ能ハサル者ノ人名ヲ憲兵及警察官吏ニ通知サナスニハ第四様式ニ依ルヘシ但郡長ハ町村長ヲシテ本條ノ通知ヲ爲サシムルコトヲ得

區長ハ前項通知ヲナスト同時ニ稅務署長ヘモ通知スヘシ

第十四條 簡閱點呼ノ場合ニハ第十一條ノ規定ヲ準用ス

第十五條 郡區長條例第五十七條第四項ニ依リ點呼令狀ヲ交付シ能ハサル者ノ人名ヲ憲兵及警察官吏ニ通知ヲ爲ストキハ同時ニ點呼令狀ヲ交付シタル者ノ人名ヲモ通知スヘシ但郡長ハ町村長サシテ本條ノ通知ヲ爲サシムルコトヲ得

第十六條 簡閱點呼令狀ヲ交付シタルモノ、封筒并失踪其他ノ爲メ交付シ能ハサリシ點呼令狀及封筒ハ郡區長之ヲ簡閱點呼執行官ニ返付スヘシ

第一様式ノ一 (用紙美濃野紙)

充第何號 (全部召集ノ例)

何日午後海軍豫備役後備役軍人ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日

官 氏 名 印

第一様式ノ二 (用紙美濃野紙)

充第何號 (一部召集ノ例)

何日午後明治何年何月以後現役ヲ離レタル海軍豫備役後備役(豫備役)(後備役)下士卒ノ充員召集ヲ令セラル

明治何年何月何日

官 氏 名 印

第一様式ノ三

(用紙美濃野紙)

演第何號

(全部召集ノ例)

何日午後何月何日ヨリ何日(週)間海軍豫備役後備役下士卒ノ大(小)演習召集ヲ令セラル

明治何年何月何日

官 氏 名 印

第一様式ノ四 (用紙美濃野紙)

演第何號 (一部召集ノ例)

何日午後何月何日ヨリ何日(週)間何年何月以後現役ヲ離レタル海軍豫備役後備役下士卒ノ大(小)演習召集ヲ令セラル

明治何年何月何日

官 氏 名 印

第二様式

(一部召集ノ例)

軍事 警報

明治何年何月以後ニ現役ヲ離レタル海軍豫備役(後備役)下士卒召集相成候事

明治何年何月何日

官 衙 公 署 名

同	同	卒同	同
同	明治二十九年同	下士同	同
同	同	卒同	同
同	明治二十八年同	下士同	同
同	同	卒同	同

第三様式ノ二

(用紙美濃厚表紙)

海軍後備役卒召集名簿	到着豫定日數	何日	何郡區役所
------------	--------	----	-------

海軍後備役卒召集名簿第一行ノ記載例
 第一召集區明治三十一年現役免除明治卅一年後備役編入卒召集名簿 明治 年 月 日調

同	明治三十年同	同	同
同	明治廿九年同	同	同
同	明治三十年 現役免除 明治三十年同	同	同
同	明治廿九年同	同	同

以下此例ニ依ル

- 一 本名簿ハ豫備役卒名簿様式ニ同シ
- 二 現今後備役下士ナキニ付之ヲ畧ス

第四様式

發送番號

海軍充員召集(演習召集)令狀ヲ交付シタルモノ、人名及事故ニ由リ之ヲ交付シ能ハサル者ノ人名左ノ通ニ候此段及通知候也

明治何年何月何日

宛 名

官 職 氏 名 印

令狀交付	濟	否	否	否
摘	要	住	所	官職氏名
行	踪			
旅	失			

注意

一 通報人アルモノハ住所及官職氏名ノ區畫ニ其ノ住所氏名ヲモ記スヘシ
 ○ 訓令第七十一號 三十二年三月三十一日
 市(郡)部警察署 市(郡)部警察分署

川端警察署

派出所	職員	部長	外勤	内勤	刑事	特務	計
寺町			六				六
出町			六				六
荒神口			六				六
署内			四	四	二	三	一九
計			六	四	二	三	一六
							八

派出所	職員	部長	外勤	内勤	刑事	特務	計
河原町			四				四
仁王門			六				六
岡崎町			四				四
南禅寺町			四				四
鹿ヶ谷町駐在所			一				一
浄土寺駐在所			一				一
吉田町東駐在所			一				一
吉田町西駐在所			一				一
計			六	四	二	四	一六

備考

寺町巡査派出所特別配置二人ハ五條警察署白壁町巡査派出所特別配置員ト交互
 寺町三條邊人力車取締ニ充ツ

中立賣警察署

職員	部長	外勤	内勤	刑事	特務	計

計	六	六	四	六	三	五	一九三
智恩院請願		二					二
井上萬吉請願							四
計	六	六	四	六	三	五	一九三
	六	六	四	六	三	五	一九三

備考

- 一 圓山巡査派出所特別配置二人ハ専ラ祇園石段下人力車夫取締ニ充ツ
- 二 大和大路巡査派出所特別配置二人ハ大和大路祇園町附近人力車夫其他雜沓ノ取締ニ充ツ

五條警察署

派出所	職員	部長		勤	内勤	刑務	特務	計
		内	外					
署内		六	六	二	六	四	七	三一
御旅町		六	六	二				八
新京極		六	六	二				八
白壁町		六	六	二				八
御幸町		六	六					六
計		六	六	二	六	四	七	三一

佛光寺	六							六
阪東屋町	六							六
烏丸	六							六
藥師前町	四							四
元兩換町	六							六
山王寺	六							六
綾小路	四							四
計	六	六	八	八	六	四	七	九九

備考

- 一 署特別配置二人ハ部内全体ノ興行場其他ノ取締ニ充ツ
- 一 御旅町巡査派出所特別配置二人ハ御旅町及四條寺町附近人力車夫其他雜沓ノ取締ニ充ツ
- 一 新京極巡査派出所特別配置二人ハ其付近雜沓取締等ニ充ツ
- 一 白壁町巡査派出所特別配置二人ハ川端警察署寺町巡査派出所特別配置員ト交互寺町三條付近人力車夫其他雜沓ノ取締ニ充ツ

五條警察署小路分署

派出所	職員		管内受持特別配置	内勤	専刑務事	特務	計
	部長	外勤					
署内	六	六	四	三	二	二	二三
楊梅		六					六
富田町		六					六
夷ノ町			二				四
七條							四
柳原		四					四
大谷派本願寺請願		八					八
倉庫會社請願		一					一
計	六	二八	六	三	二	二	四七

備考

一 署特別配置四人ハ停車場ノ取締ニ充ツ
 一七條巡查派出所特別配置二人ハ其近傍無賴徒ニ注意セシム且受持員ハ共同勤

務セシム

堀川警察署

派出所	職員		管内受持特別配置	内勤	専刑務事	特務	計
	部長	外勤					
署内	六	六	四	二	四	二二	
六角		六					六
太子山町		六					六
大宮町		六					六
東堀川		六					六
堀ノ上町		六					六
御前通		四					四
下魚棚		四					四
八條		四					四
西八百屋町		四					四

署名職員		三十二年度郡部巡查配置表		表中左傍ノ數ハ請願巡查ノ數ナリ	
部長	外勤	内勤	特選	刑事	計
下鴨	一	一五	二		一九
醍醐	一	一一			一一
桂	一	四九			一五
花園	一	四〇	一		一四
向日町	一	一一			一一
伏見	四	二七	五	二	四二
大久保	一	八			一一
淀	一	五			一一
計	六	五二	四	二	六八
本派本願寺請願		四			四
島原請願	一				一

井手	八幡	木津	笠置	龜岡	周山	宮島	園部	檜山	福知山	上六人部	綾部	舞鶴
一	一〇	一五	八	〇六	七	五	二七	三	二七	七	三三	一七
二	二	二	一	三	二	一	三	一	三	一	二	三
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
									五			一〇
												一
一	一〇	二〇	二	二六	二	八	二六	一六	三九	一〇	二九	三四

河	志	宮	加	發	峰	網	間	久	計
守	樂	津	悅	老	山	野	人	美	濱
一	一	二	一	一	一	一	一	一	三八
七	八	三	九	九	一	〇	七	九	三五 一九
一	一	三	一	二	二	二	二	二	五二
一	一	一	一	一	一	一	一	一	三〇
二	一	三	一	一	一	一	一	一	二九
一	一	一	一	一	一	一	一	一	九
一	二	三	二	一	一	一	一	一	五 一九

備考
一 龜岡園部兩署前願巡査ノ中各二名ハ四五兩月限トス

○訓令第七十二號 一四 日

郡長 市長 町村長

今般告諭第一號ヲ以徵兵入營ノ際心得方告諭候付テハ郡長市町村長ニ於テモ宜シク此意ヲ了シ一般ニ其徵候様取計ヲヘシ

○訓令第七十三號 一四 日

郡長 市長 町村長

在營兵卒へ送金ノ儀ニ關シ今般告諭第二號ヲ以テ告諭候付テハ郡長市町村長ニ於テモ宜シク此意ヲ了シ該趣旨其徵候様取計ヲヘシ

○訓令第七十五號 三三 日

郡役所 市役所 町村役場

市町村立小學校徒弟學校實業補習學校正教員恩給基金市町村納金收納手續左ノ通相定ム
本手續ハ明治三十二年度所屬ヨリ實施ス

市町村立小學校徒弟學校實業補習學校正教員恩給基金市町村納金收納手續

第一條 明治二十三年法律第九十號第十四條第二項ニ依リ市町村ヨリ常聽ニ納ムヘキ金員ハ毎月二十五日限第一號式ノ納付書ヲ以テ現金ヲ府金庫ニ拂込ニ其証ヲ得テ市參事會ハ常聽ニ町村ハ所轄郡役所ニ納付シ其領收証書ヲ附フヘシ

第二條 前條ニ依リ領收証書ヲ請フトキハ市參事會ハ第二號式町村ハ第三號式ノ任譯書ニ現金受領濟証ヲ添付スヘシ

第三條 郡役所ニ於テ町村ヨリ納金ヲ受領シタルトキハ第四號式ノ報告書ヲ製シ一般地方税ニ關スル規定ニ依リ之ヲ收入額ヲ報告スヘシ

(參照) 明治三十三年(十月)法律第九十號市町村立小學校教員退職料及遺族扶助料法抄錄第十四條第二項

市町村ハ其市町村立小學校ニ在職スル正教員ノ給料額百分ノ一二當ル金員ヲ毎年其府縣ニ納ムヘキモノトス

第一號式 用紙適宜(縱四寸五分 横三寸三分)ノモノ三枚

書 付 納	甲 第 何 號	何 校 外 何 校 分	何 市 町 村 納
	明 治 何 年 度	小學校(何々)教員 恩給基金納金	何 年 何 月 分
一金何程			
右 納 付 候 也			

証 濟 領 受 金 現

年 月 日		市參事會(町村長)氏 名 印	
乙 第 何 號	何 校 外 何 校 分	何 市 町 村 納	
明 治 何 年 度	小學校(何々)教員 恩給基金納金	何 年 何 月 分	
一金何程			
右 現 金 受 領 濟			
年 月 日		府 金 庫 第 何 部 印	
丙 第 何 號	何 校 外 何 校 分	何 市 町 村 納	

日限り可差出旨本年一月十二日木府訓令第三號ヲ以テ訓令候補者同書中ノ不完全又ハ其他ノ事故ニ依リ期限ヲ經過シ本文ニ該當スルモ潰族ヨリ届出サルモノ又ハ届出ルモ其期ヲ失スル等ノ者有之候テハ潰族不抽ニ付右期限ノ儀ハ當分延期候條届漏無之様注意之上若シ該當ノ者有之候ハ、至急届書ヲ徴シ其時々差出スヘシ

○訓令第九十二號 四月二十七日

郡役所 山城ヲ 警察署 警察分署同

後備役歩兵士官 後備役歩兵下士以下及第一補充兵 豫備後備役野戰砲兵 豫備役要塞砲兵 工兵 上等兵以下 (下士適任証書) 及砲兵第一補充兵左記之通り勤務演習ノ爲メ召集ヲ行ヒ旅費支給日時ヲ五月二十七日午前十時ヨリ同日午後三時迄ト定メタル旨第十師團長ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

- 一 後備役歩兵士官 六月一日ヨリ三週日
- 二 豫備役歩兵下士以下 (歩兵第十、第二十聯隊ハ入隊セシムルモノノミ) 六月一日ヨリ三週日
- 三 後備役歩兵下士以下(同) 前) 六月一日ヨリ二週日
- 四 歩兵第一補充兵 (同) 前) 六月一日ヨリ三週日
- 五 豫備役野戰砲兵上等兵以下 (下士適任証書所持者ヲ除ク) 六月一日ヨリ三週日
- 六 後備役野戰砲兵下士上等兵 六月一日ヨリ二週日
- 七 豫備役要塞砲兵上等兵以下 六月一日ヨリ三週日

八 豫備役工兵上等兵以下 (通信員衛隊者及下士) 六月一日ヨリ四週日

九 砲兵第一補充兵 六月一日ヨリ三週日

○訓令第九十三號 四月二十七日

郡役所 京都市役所 京都市下京區役所

明治二十三年八月十八日甲第三十八號達前書郡役所ノ次ニ京都市役所ヲ追加シ規程第三條第五條及書式中「郡區長」トアルヲ「郡市區長」ト改ム

(參照) 明治二十三年(八月)甲第三十八號大隈區徵兵票及検査所用物品取扱規程抄録

第三條 物品ノ代價若クハ材料等ハ其供給者ヨリ三號式ノ請求書ヲ提出サシメ之ニ依リ個所必要ノ理由等ヲ朱印シ府知事ヘ請求スヘシ尤モ郡區長ハ別ニ第四五號式ノ請求書及領收証ヲ物品會計官吏ヘ送付スルモノトス

第五條 郡區長ハ大隈區徵兵票及検査所用物品出納一切ノ責ニ任シ凡ソ該票ノ物品ハ之ヲ保管スヘシ但保管ノ物品ヲ故意若シクハ過失ニ由リ亡失毀損シタルトハ之ヲ賠償セシム

○訓令第九十四號 四月二十七日

郡區役所 丹波丹後ヲ除ク

本年六週間現役兵身體検査場并日時左ノ通り候條此旨町村長ヲ經テ本人ニ達スヘシ

一 検査日時

四月三十日ヨリ五月三日迄

一 検査場

下京區健仁寺内徵兵場

○訓令第九十五號 四月 日

郡役所

本年四月十三日内務省令第六號ヲ以テ郡歳入出豫算調製ノ式并ニ費目流用ノ規定ハ明治二十四年四月同省令第二號ノ例ニ依ルコトニ定メラレ候ニ付テハ右規定第二條ニ依リ添付スヘキ豫算説明書ハ明治三十一年七月訓令第五百五十八號ノ例ニ依ルヘシ

○訓令第九十六號 五月 日

郡役所 市役所 區役所 町村役場

害蟲豫防驅除ハ一朝其機ヲ誤ルトキハ不測ノ災害ヲ來タスコトハ再昨三十年浮塵子蟲慘害ノ例ニ鑑ミルモ明ナル義ニ有之就テハ再昨年來訓令又ハ告諭及ヒ置候次第モ有之候處當局者ノ指導上萬一ノ遺漏有之候テハ遺憾ノ至リニ候本年モ已ニ新潟、愛知、三重、静岡、山形、徳島、ノ諸縣ハ其發生ヲ認メ殊ニ愛知新潟縣ノ如キハ其害甚シク漸次蔓延ノ候候相見ヘ候趣一般害蟲ニ對スル豫防驅除ノ方法手段ニ就テハ夫々注意セラレツ、アルヘント雖モ苗代ニ於テ害蟲ヲ驅除スルハ最モ必要ノ義ニシテ目下苗代ノ季節ニ切迫シタルハ苗代ニ於ケル害蟲驅除ノ準備等ニ關シテハ一層注意ヲ加ヘ充分ニ勵行シテ他日遺憾ナカラシムルヲ期セラルヘシ

○訓令第九十七號 五月 日

水産講習所

其所テ地方税經濟ニ係ル支部局トシ其所長ヲ支部局長及ヒ現金前渡ヲ受クル吏員トス
本令ハ明治三十二年五月十五日ヨリ施行ス

○訓令第九十八號 五月 日

市長 町村長

各恩給法又ハ官吏遺族扶助法等ニ依リ扶助料ヲ請求スル者ノ取扱規程ハ各其施行規則ニ明記有之
 通達署又ハ奥印ノ上地方長官ニ差出スヘキ管ノ處或ハ市町村長ニ於テ請求書ノ書式又ハ証據書類
 ノ當否等取調ノ爲メ數日間役所ニ留置シ爲メニ請求期限ヲ經過スル者間々有之抑々市町村長ノ與
 印ヲ要スルハ其市町村内居住者タルヲ證スルノ必要アルヲ以テ施行規則ニ於テ規程セラレタル迄
 ノ事ニ付市町村長ノ故意又ハ過失ニ因ルトモ之カ爲メ法律上規定スル所ノ期限ヲ延長スヘキ理由
 之レナクニ付請求期限内ニ地方長官ニ提出ヒサル請求書ハ本人ノ權利消滅又ハ其權利ヲ拋棄シタ
 ルモノト見認ムルノ不得止場合ニ立至リ請求者ニ對シテハ頗ル憫然ノ義ニ付將來右等不都合ノ義
 無之様豫メ注意スヘシ

○訓令第九十九號 十五日

那區役所丹波丹後 警察 署同 警察 分署同

○訓令第九十九號 十五日
 續工靴工第一補充兵ニシテ明治三十一年徵集ノ者及同年前徵集ノ者ニシテ未教育ノ者教育召集ヲ
 行ヒ旅費支給時間ヲ五月二十五日午前八時ヨリ午後五時迄ト定メタル旨第四師團長ヨリ通知アリ
 其召集豫定人員左ノ如シ此旨心得ヘシ

第一補充兵教育召集豫定人員表

兵種	召集	部隊	人員	區	種
第一補充兵					第一補充兵
兵種	召集	部隊	人員	區	部
					京 部

續	工六月一日百五十日步兵第三十八聯隊	召集員	一
靴	工同	同	一
計	同	同	二
備	一 本表ノ如ク召集員(現在人員ナリ)ヲ示スト雖モ異動ニ依 リ増員スルトキハ其レヲ加ヘ召集スルモノトス		
考	二 △印ヲ附スルモノハ三十年以前徵集ノ未教育者ナリ		

○訓令第百號 十五日

那區役所丹波丹後 警察 署同 警察 分署同

騎兵砲兵工兵科士官以下左記之通り勤務演習ノ爲召集ヲ令シ旅費支給時間ヲ本月二十五日午前七
 時ヨリ午後五時迄ト定メタル旨第四師團長ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

- 一 野戰砲兵、工兵科後備役士官 六月一日ヨリ三週日
- 一 騎兵科後備役下士以下 六月一日ヨリ二週日
- 一 野戰砲兵科後備役上等兵一二等卒 六月一日ヨリ三週日
- 一 同 後備役下士以下 六月一日ヨリ二週日
- 一 工兵科後備役上等兵一二等卒 六月一日ヨリ四週日
- 一 同 後備役下士以下 六月一日ヨリ二週日

○訓令第八八號 五月二十五日

郡部警察署 郡部警察分署

本年三月 京都府訓令第七十一號三十二年度郡部警察署警察分署巡查配置表中左ノ通改正追加ス
一同表舞鶴ノ部部長ノ欄ニトアルヲ三特務特別ノ欄ニトアルヲ九トス
一同表備考中
一桂花園署請願巡查各四名ハ六月限トス
一龜岡警察署請願巡查ノ中四名ハ六月限トス

(參照) 明治三十二年(三月)訓令第七十一號抄録

姓名	職	長	外	勤	内	勤	特	通	特	別	刑	事	計	表中在後ノ數ハ訓令 別添付ノ數ナリ
桂	長	一											一	三
花	長	一											一	四
龜	長	一											一	四
舞	長	一											一	六
鶴	長	一											一	六
總	長	一											一	六
警	長	一											一	四

○訓令第一百十二號 六月 日

警察署 警察分署

巡查服裝ノ儀本年六月内務省訓令第十八號ニ據リ來ル二十日迄整一ニ冬衣夏袴ヲ用ヒシムヘシ

(參照) 明治三十二年(六月)内務省訓令第十八號

巡査ノ服裝ハ寒暑ノ度者シテ相違セル地ヲ除キ一定ノ期間整一ニ冬衣夏袴ヲ用ヒシムルコトヲ得

○訓令第一百三號 五月 日

警察署長 山城ヲ
除ク

本年福知山聯隊區内簡閱點呼執行ニ付點呼場並點呼區域同日別表ノ通定タル旨同司令官ヨリ通知有之候條此旨心得ヘシ

(別表)

明治三十二年福知山聯隊區簡閱點呼日別表 (甲)

月日	區分	點呼場	參會區域	町村	宿泊地
七月二日	宮津町	興謝郡役所	宮津 城東 栗田 上宮津 吉津		七月一日 宮津
三日	發老村	第三高等小學校	發老 伊根 堀妻 本庄 筒川 野		同 二日 岩ヶ鼻
四日	若瀧村	弘道小學校	石川 山田 岩瀧 府中 日置		同 三日 岩瀧
五日	加悅町	遼道小學校	桑飼 雲原 興謝 加悅 三河内		同 四日 加悅
六日	峰山町	峰山高等小學校	全郡壹圓		同 五日 峰山

七日	間人村高等小學校	深田 德光 八木 上宇川 下宇川	同 六日 間人
八日	網野村郡役所	濱野 木津 郷 網野 淺茂川 鳥津	同 七日 網野
九日	久美濱町郡役所	鳥取 吉野 溝谷 全郡覺圓	同 八日 久美濱
備考	點呼開始八午前七時トス 點呼執行官陸軍歩兵大尉大久保綱平		

明治三十二年福知山聯隊區簡點呼日割表 (乙)

月日	區分	點呼場	參會區域	町村	宿泊地
七月二日	河守町	淨仙寺	河守上 河守 河西 河東 有路上 有路下 岡田上	河守 河西 河東 有路上 有路下 岡田上	七月一日 河守
三日	岡田下村字志高	宏志寺	岡田中 岡田下 丸八江 東雲 由良 神崎	岡田中 岡田下 丸八江 東雲 由良 神崎	同 二日 岡田下
四日	舞鶴町會堂	公舞會堂	四所 舞鶴 高野 中筋 池内 餘内	四所 舞鶴 高野 中筋 池内 餘内	同 三日 舞鶴
五日	志樂村教會堂	天理教會堂	倉梯 與保呂 志樂 朝來 東大浦 西大浦	倉梯 與保呂 志樂 朝來 東大浦 西大浦	同 四日 瀨
十六日	平屋村小學校	濟美尋常小學校	平屋 知井 宮島 大野 鶴ヶ岡	平屋 知井 宮島 大野 鶴ヶ岡	同 十五日 平屋 同 十六日 同右
十八日	山國村照寺	山國 照寺	山國 黑田 弓削	山國 黑田 弓削	同 十七日 山國

十九日	周山村郡役所	周山 宇津 細野 神吉	同 十八日 周山
廿一日	藤田野村小學校	藤田野 吉川 千代川 宮前 本橋 畑野 西別院 東別院 曾我部	同 十九日 同右 同 二十日 同右
廿二日	龜岡町郡役所	龜岡 櫻田 篠 保津 千歳 河原林 馬路 旭 大井	同 廿一日 同右
廿三日	園部尋常小學校	園部 富本 八木 吉富 新庄 川邊 岡ノ庄 摩氣 西本梅 東本梅 竹野	同 廿二日 同右
廿四日	世木村小學校	世木 五夕庄 胡麻郷	同 廿三日 殿田
廿五日	檜山村小學校	檜山 高原 須知 賀美 三ノ宮 梅田	同 廿四日 檜山
廿六日	上和知村小學校	上和知 下和知	同 廿五日 外谷
廿七日	中上林村役場	中上林 口上林 奥上林	同 廿六日 中上林
廿八日	綾部町小學校	綾部 中筋 以久田 吉美 山家 西八田	同 廿七日 綾部
廿九日	物部村小學校	物部 志賀郷 小畑 佐賀 東八田	同 廿八日 物部
三十日	上六人部村字三俣	上六人部 細見 川合 上六人部 中六人部 下六人部 西中筋	同 廿九日 生野
卅一日	福知山町小學校	福知山 曾我井 上豐富 下豐富 福知山 鹿我	同 三十日 福知山
八月一日	中夜久野村字日置	中夜久野 中夜久野 上夜久野	同 卅一日 額田

同日	上川口村字野花 尋常小學校	下川口 上川口 金山 三岳 金谷	八月一日 立原
備考	職呼開始ハ午前七時トス 職呼執行官陸軍歩兵大尉中村清雄		

○訓令第百十七號 六月 日 那役所 市役所 町村役場

國稅徵收上納額算定方等ハ左ノ通取扱ハルヘシ

- 一 各納税人ノ地租納額各納期分配上厘位未滿ノ端繳ヲ生シタルトキハ四捨五入法ニ依リテ算シ終期分ハ總租額ヨリ前期分ヲ扣除シ殘額ヲ分配スルモノトス
- 二 月割地租モ前項ニ據リ各納期ニ分配スルモノトス
- 三 地租名寄帳ニ依リ算出シタル一人別ノ納額集計高ト納額通知書ノ納額ト符合セザルトキハ其時々金額事由ヲ稅務署長ニ報告シ其超過額ハ一人別納額算出上過剩額トシ不足額ハ一人別納額算出上不足額トシ整理スルモノトス
- 三 納稅告知書交付後納期末日以前ニ於テ納税人又ハ其納額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ彙ニ交付シタル納稅告知書ヲ取消シ更ニ納稅告知書ヲ交付スルモノトス但シ税金ノ收納ナシタルモノハ此限リニアラス

○訓令第百十八號 六月 日 那區役所丹波丹後 警察署同 警察分署同
 來ル七月一日ヨリ三週間輻重兵科豫備役下士同適任証書所持上等兵ヲ勤務演習ノ爲召集ヲ令シ旅

費支給時間ヲ本月二十五日午前七時ヨリ午後五時迄ト定メタル旨第四師團長ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

○訓令第百二十號 六月 日 警察署 警察分署
 本年六月當府訓令第百十二號巡查ノ冬衣夏袴着用ノ期日二十日トアルヲ十五日ト改正ス
 ○訓令第百二十四號 六月 日 警察署長 丹波丹後
 本年京師聯隊區内四團職呼職一付州功並並呼區城同日四團ハノ進心ハル旨 同司官ヨリ通知有之候條此旨心得ヘシ

明治三十二年京師聯隊區簡閱點呼日割表

郡區	參會場	點呼區	城	人員	點呼日時
宇治	醍醐村 宇治郡役所	一	圓	九四	七月十日
下京	京都市議事堂	一	圓	九二七	同 十一日
上京	同上	一	圓	八〇七	同 十三日
愛	岩倉村實相院	田中、岩倉、修學院、鞍馬口、上賀茂、大宮、狛野、鞍馬、白川、松ヶ崎、鷹ヶ峰、雲ヶ畑、野口、下鴨	一	一七一	同 十五日
	大原村役場	八瀬、大原	一	一九	同 十六日

岩	花脊村役場	花脊、久多	一〇	同十八日
葛	小野郷村役場	小野郷、中川	六	同二十日
野	嵯峨村字上嵯峨尋常小學校	大森、西院、朱雀野、大内、七條、京屋、桂川、岡、松尾、梅津、下嵯峨、嵯峨、花園、梅ヶ畑、衣笠	二二七	同廿二日
乙訓	向日町乙訓郡役所		一三八	同廿三日
紀伊	伏見町紀伊郡役所		二八五	同廿四日
久世	大久保村廣野高等小學校		一三七	同廿五日
級	青谷村青谷尋常小學校	井手、多賀、青谷、田原、宇治田原	一四四	同廿六日
喜	田邊村綴喜郡公會堂	八幡、美豆、都々城、有智郷、大住、田邊、草内、三山木、普賢寺	九一	同廿七日
和	木津町和樂郡公會堂	瓶原、加茂、菅尾、木津、上狛、高麗、棚倉、狛田、稻田、祝園、山田莊、相樂	一六三	同廿八日
樂	笠置村尋常小學校	東和東、中和東、西和東、湯船、笠置、大河原、高山	九三	同廿九日
備考	一 點呼開始ハ午前八時トス 一 點呼執行官陸軍歩兵大尉鈴木信			

郡役所 山崎カ 警察署 同 警察分署 同

訓令第百二十號 六月二十日

豫備役輜重兵下士以下來ル八月十一日ヨリ三週間勤務演習ノ爲召集ヲ行フ旨第十師團長ヨリ通知アリ此旨心得ヘシ

○訓令第百三十號 六月二十一日

郡役所 警察署 同分署

近來遊藝隊人ヲ以テ届出ヲ爲シ事實ニ於テハ藝妓同様ノ舉動ヲ爲スモノアル越右ハ風俗取締上ハ勿論徴税上ニ於テモ不都合ニ候條此際相當調査ヲ爲スヘキハ無論將來遊藝隊人届出ノ場合ハ嚴重ニ調査ヲ遂ケ萬一藝妓ニ紛ハシキ所業ヲ爲スモノナリト認ムル場合ニ在テハ警察署又ハ分署ニ打合ヲ爲シ以テ本項ノ如キ不都合ナキ様篤ク注意ヲ加フヘシ

○訓令第百三十二號 六月二十三日

郡役所 市役所 町村役場 市町村立小學校

市町村立小學校雇員採用ニ關スル規程左ノ通相定メ本年八月一日ヨリ施行ス

市町村立小學校雇員採用ニ關スル規程

第一條 郡市長ニ於テ小學校教員候補者ノ欠乏ニ依リ市町村立小學校ニ正當ノ資格アル教員ヲ推薦スルコト能ハサルトキハ當該小學校教員給料確定額ノ範圍内ニ於テ相當ノ給料ヲ支出セシメ雇員ヲ以テ一時之ヲ補充スルコトヲ得
但雇員ノ代用期限ハ一ヶ年以内トス

第二條 雇教員ハ身体健全品行方正ニシテ修業年限四ケ年ノ高等小學校ヲ卒業シ又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者ナルヲ要ス

但專科ニアリテハ其學科ノミニ就キ高等小學校卒業以上ノ學力アルモノヲ採用スルコトヲ得

第三條 郡市長ニ於テ雇教員ヲ採用シタルトキハ學校名勤務別(本條亦科准教員代用)代用期限俸給額及本入ノ履歷書等ヲ具シ一週日以内ニ開申スヘシ俸給ノ増減其他異動アルトキ亦同シ

第四條 郡市長ハ雇教員ノ代用期限中ト雖トモ之ヲ解雇スルコトヲ得

知事ハ雇教員ノ代用期限中ト雖トモ必要ノ事由アリト認ムルトキハ郡市長ニ對シテ之ノカ解雇ヲ命スルコトアルヘシ

○訓令第三百三十三號 六月二十三日

丹後沿海町村役場(宮津町役場ヲ除ク)

從來海員雇入雇止公認ノ事務ヲ取扱ヒタル町村役場等ハ船員法施行後右ノ事務ヲ取扱ハサル儀ニ付同法施行(六月十六日)ノ日ヨリ六月三十日迄ニ大坂海事局ニ左ノ書類ヲ送附シ事務ヲ引繼クヘシ

- 一 海員名簿及雇入雇止公認台帳又ハ之ニ代フヘキ書類
- 二 船員法施行ノ際現ニ雇入期間中ニ係ル海員ノ雇入証書副書
- 三 海員雇入証書(大形小形共)海員雇止証書用紙

○訓令第三百三十四號 六月二十三日

各郡長

郡制施行順序左ノ通相定ム

郡制施行順序

第一條 郡制第四條第二項但書ニ依ル選舉區ノ設定并ニ郡會議員ノ定數、各選舉區ニ於テ選舉スヘキ郡會議員ノ數ノ許可ハ七月五日迄ニ稟請スヘシ

第二條 郡會議員ノ選舉ハ七月二十日ヲ以テ告示スヘシ但シ選舉期日ハ九月三十日トス

第三條 選舉ヲ告示シタルトキハ左ノ告示訓令及指定ヲ爲スヘシ

一 郡制第十一條第二項ニ依リ選舉人ノ其住所外町村ニ於ケル納稅額届出方ノ告示

二 町村長ニ對シ選舉人名簿調製期日其他注意ヲ要スヘキ事項ノ訓令

三 數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル選舉區管理町村長ノ指定及其告示

四 投票用紙ノ式告示

第四條 當選人確定シタルトキハ第二十二條ノ手續ヲ爲スト同時ニ其住所氏名職業ヲ知事ニ報告スヘシ

第五條

當選人其當選ヲ辭シタル爲シ更ニ選舉ヲ要スルトキハ直ニ選舉ノ告示ヲ爲スヘシ

第六條 郡會成立シタルトキハ直ニ臨時郡會開會ノ手續ヲ爲スヘシ臨時郡會ニハ左ノ選舉及議決

明治三十二年六月 訓令

ヲ爲サシムヘシ

一 議長及副議長ノ互選

二 名譽職參事會員及同補充員ノ互選

三 會議規則及傍聽人取締規則

四 郡會議員及名譽職參事會員其他名譽職員ノ費用辦償額及支給方法

前項第三號第四號ノ議決ハ直ニ許可ヲ乞ヒ第一號第二號ノ選舉ハ直ニ當選者ノ住所氏名職業年齡ヲ知事ニ報告スヘシ

第七條 郡參事會成立シタルトキハ郡長ハ明治三十二年度歲入出豫算其他必要ナル議案ヲ其審査ニ付スヘシ

前項審査了レハ更ニ臨時郡會ヲ開キ之ヲ議決セシムヘシ

前項ノ會議ニハ組合ヨリ引繼ヲ受タル財產表ヲ提出スヘシ

第八條 郡制第百二十一條ニ依リ郡ニ移ルヘキ事業及財產營造物ハ七月一日ヲ期シ其引繼ヲ受クヘシ

前項引繼ヲ受ケタルトキハ直ニ其明細書ヲ具シテ知事ニ報告スヘシ

第九條 郡制實施ヨリ郡會ニ於テ豫算ヲ議定スルニ至ルノ間總町村組合ヨリ引繼ヲ受ケタル豫算ニ依リ難キ必要ノ經費ハ郡長ニ於テ其豫算ヲ定メ七月五日迄ニ知事ノ指報ヲ受クヘシ

前項ノ豫算ハ臨時郡會ニ報告スヘキモノトス

郡費ヲ收入スルニ至ル迄ノ經費ハ總町村組合ノ引繼金ヨリ支出シ引繼金ナキモノハ郡役所經費中ヨリ繰替ヲ爲スコトヲ得但シ豫算議定後ハ郡制第九十五條末項ノ規定ニ依ルヘシ

第十條 郡制施行順序日取概テ左ノ如シ

七月一日

郡制施行 總町村組合ヨリ事業其他ノ引繼ヲ受ク

數町村ノ區域ニ依ル選舉區ノ許可稟請

七月五日迄

郡會議員ノ定數并ニ各選舉區ノ議員數許可稟請
豫算議定ニ至ル迄ノ經費豫算指報何

七月二十日

郡制第九條ニ依リ選舉ノ告示

選舉人住所外町村ニ於ケル納稅届出注意方ノ告示

七月廿一日

町村長ニ對シ名簿調製期日其他注意事項ノ訓令
數町村ヲ以テ區域トスル選舉區管理町村長ノ指定及其告示
投票用紙ノ式告示

八月一日

此日ノ現在ニ依リ町村長ニ於テ名簿ヲ調製ス

八月七日

町村長ニ於テ名簿總覽ノ期日及場所ヲ告示ス

八月十日

數町村ノ區域ニ依ル選舉區内町村長ヨリ此日迄ニ名簿ヲ管理町村長ニ送付ス

自八月十一日 名簿鑑覽期日
至八月十七日

八月廿六日 町村長ニ於テ名簿ニ關スル異議決定ノ最後期日

九月廿三日 名簿確定期日

九月廿六日 此日迄ニ選舉管理町村長ヨリ關係町村長へ選舉會場ヲ通知ス

九月廿七日 此日迄ニ各町村長ニ於テ選舉會場ヲ告示ス

九月廿九日 此日迄ニ町村長ニ於テ選舉立會人ヲ選任ス

選舉期日

九月三十日 當選者ハ當選ヲ通知ス

當選者ノ住所氏名ヲ郡長ニ報告ス選舉録就ヲ添フルコト

十月十九日 當選承諾申立ノ最後期日

當選證書ハ承諾書及領ノ期日之ヲ付與シ同時ニ其住所氏名ヲ告示ス

十月二十日 臨時郡會ノ招集及其會議ニ付議スル事件(施行順序第六條)ヲ告示シ同時ニ議員ニ招集狀ヲ發ス但シ急施事件トシテ招集日限ヲ短縮シ十月二十五日開會スルコトハスヘシ

十月廿五日 臨時郡會開會

十月三十日 臨時郡會ノ招集及其會議ニ付議スル事件ヲ告示シ同時ニ議員招集狀ヲ發ス

十一月四日 郡參事會ヲ招集シ豫算案等ノ審査ヲ爲サシム

十一月九日 臨時郡會開會

郡制第二十條末項ニ該當スル當選者アラサルトキハ臨時郡會ノ招集開會等ノ日時ヲ順次相當線上ケルロトヲ得

○訓令第三百三十五號 大 二十七日

郡有財産臺帳ハ總テ町村基本財産郡役所備付ノ臺帳様式ニヨリ調製スヘシ

○訓令第三百三十六號 大 二十八日

明治二十八年ニ京都府訓令第二十三號巡查心得細則中左ノ通改正ス

第二十七條中「帽ハ端正ニ冠戴スヘシ」ト改ム

第三十二條中「肩掛及雨覆」ノ五字ヲ削除シ外套ノ下(種)及覆面「ヲ挿入ス

第三十三條中「長短ヲ問ハス全部黒色革製トシ」トアルヲ削除ス

第三十六條中「炎天ノ際ニ」トアルヲ削除ス

第三十八條中「鞋脚絆ヲ以テ靴ニ代用スル場合ニハ紺又ハ黒色ノ足袋并ニ同色ノ脚絆ヲ用ユヘシ」ト改ム

第四十七條中外套以下ヲ「甲種外套ヲ着スルトキハ其下ニ紺ノ劍柄ヲ外部ニ露ハスヘシ」ト改ム

警察署 警察分署

郡 長

第四十九條第二項中第六「トアルヲ第五」ト改ム

第五十條「定規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ時計紐釦ハ外部ニ露ハスヘカラス」ト改ム

第二十四條、第二十九條、第三十一條、第三十五條ノ各條ヲ削除シ第二十四條以下順次繰上テ

(參照) 明治二十八年(二月)訓令第二十三號抄錄

第二十四條 定規ノ服裝ヲ爲ストキハ必ス白色ノ立襟及ヒ手袋ヲ用ユヘシ

第二十七條 朝ハ端正ニ冠戴シ其革紐ハ必ス願下ニ掛クヘシ

第二十九條 外装ハ雨雪又ハ防禦ノ爲メ着用スルモノトス

肩掛ハ雨雪又ハ夜間ニ限リ外装ト併用スルモノトス

雨履ハ雨雪ニ限リ用ユルモノトス

第三十一條 外装ハ警備警備ノ節又ハ署内職務中及上官ノ居室ニ於テハ着用スルコトヲ得ス

但途上雨雪ノ時ハ此限ニアラス

第三十二條 外装肩掛及雨履ハ晴雨ニ拘ラス出動ノ場所ニ携帶スヘシ

其携帶方ハ之ヲ細長ク卷キ肩掛ニ連結シ左ノ肩ロリ右腋下ニ斜掛スヘシ

第三十三條 靴ハ長短ヲ問ハス全部黒色革製トシ常ニ光澤ヲ帶ハシムヘシ

第三十五條 肩掛雨履ハ外装ト分離シテ用ユヘカラス

但夏期微雨又ハ夜間ハ此限ニ非ス

第三十六條 日置ハ夏服着用期限内炎天ノ際之ヲ用ユヘシ

第三十八條 囚人搬送又ハ村落巡回其他嚴禁ノ途ニ就クトキハ草鞋ヲ穿ツコトヲ得

但本條ノ場合ニ於テハ紺又ハ黒色ノ足袋并ニ同色ノ脚絆ヲ用ユヘシ

第四十七條 劍ノ帶革ハ上衣ノ下ニ之ヲ締メ外装ヲ着スルトキハ其上ニ雨天ナレハ其下ニ締メ劍柄ヲ外部ニ顯ハスヘシ

第四十九條 呼子箱ハ長二尺ノ黒紐ヲ以テ上衣第五ノ釦ニ結ヒ懸垂ノ右部ニ手帖ハ其左上部ニ捕繩ハ務ノ右懸垂ニ納ムヘシ

外装ヲ着シタルトキハ呼子箱ハ其紐ヲ第六ノ釦ニ結ヒ捕繩ト共ニ其右部ノ腰袋ニ手帖ハ其左部ニ納ムヘシ

第五十條 定規ノ服裝ヲ爲シタルトキハ時計紐釦ハ上衣左部第五ノ釦ニ掛ケ同部ニ隠シ納ムヘシ

警察署 警察分署

○訓令第三百三十七號 六月二十八日

新クニ採用シタル巡査ニシテ學術ノ素養アリ實務上差問無シト認ムルモノニ限リ當分ノ内巡査教

習所規則第二十四條ノ規定ニ拘ハラズ教習期間ヲ短縮シ又ハ學科ノ幾部ヲ省略スルコトヲ得

(參照) 明治三十年(十一月)訓令第二百九號抄錄

第二十四條 左ニ記載シタルモノハ教習期間ヲ短縮シ又ハ學科ノ幾分ヲ省略スルコトヲ得

一 滿五年以上巡査ヲ奉職シ退職後滿八年ヲ經過セザル者

二 滿三年以上巡査ヲ奉職シ退職後滿三年ヲ經過セザル者

三 尋常中學校ヲ卒業シ若クハ之レニ相當スヘキ學術素養アル者

四 列任官以上タリシ者

五 下士適任監査ヲ有スル者

○訓令第三百三十八號 六月三十日

郡役所 區役所

海軍召集條例第二十條ニ依リ選定スヘキ海軍々用旅舎ハ郡長ニ在テハ應召員ノ通過スト認ムヘキ

沿道町村長サシテ一戸或ハ數戸ヲ選定セシメ區長ニ在テハ適當ノ場所ニ一戸或ハ數戸ヲ選定シテ

來ル七月中當廳ニ報告シ爾後増減變更アル毎ニ其都度報告スヘシ

○訓令第三百二十九號 六 三十日

郡役所 警察署 監獄支署 府立學校 水産講習所
療病院醫學校 驅蠶院 驅蠶所 市役所 府金庫

本府支部局帳簿式、出納規程、會計規則、府金庫事務取扱規定中左ノ通改正ス
本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

帳簿式

第一號式受拂金司計簿備考一中備荒儲蓄金ノ行ヲ左ノ如ク改ム

罹災救助基金 但前ニ準ス

出納規程

備荒儲蓄金トアルヲ總テ罹災救助基金ニ改ム

第三條第一項支部局ニ於テノ下ニ特別ノ規程アルモノ、外ノ十一字ヲ挿入ス

會計規則

第六條第一項歳出三教育諸費ノ下ニ罹災救助基金ノ六字ヲ挿入シ第二項ヲ削除ス

第十五條一ヲ左ノ如ク改ム

一 旅費修學旅行費及漁業實習費

第十六條圖書代ノ下ニ歸郷旅費ノ四字ヲ挿入ス

府金庫事務取扱規程

何備荒儲蓄、備荒儲蓄金トアルヲ總テ罹災救助基金ニ改ム

(參照)

訓令第三十四號支部局帳簿式(明治三十一年二月十五日)

訓令第五十七號支部局出納規程(明治三十年三月廿九日)

訓令第三百二號京都府會計規則(明治三十一年十月三日)

訓令第三十九號府金庫事務取扱規程(明治三十二年二月廿七日)

○訓令第四百十號 六 三十日

郡役所

郡制施行ノ爲メ郡役所經費ヨリ郡ノ費用ヲ繰替フルトキハ左ノ手續ニ據ルヘシ

一 繰替金ハ受拂金司計簿中經費ノ口座ニ於テ旅費概算渡ノ記載例ニ準シテ引落スヘシ

一 受拂金司計簿中適宜郡費繰替金ノ口座ヲ設ケ受ノ欄ニ繰替金額ヲ拂ノ欄ニ戻入金額ヲ墨書スヘシ

但本口座ノ金額ハ現金ノ座ニ加算セス

一 繰替金額ハ支部局出納受規程第五號式受拂計算書中ニ概算渡ト並ヘ記スヘシ

一 繰替金ハ郡長ノ請求書ニ據リテ仕拂ヒ郡出納吏(郡出納吏ナキトキハ其事務ヲ取扱フモノ)ノ

領收証書ヲ徴スヘシ

一 戻入ハ郡長ノ返納書ニ據リテ納入告知書ヲ發シ收納ノ手續ヲ爲スヘシ

○訓令第四百四十一號 三十日

郡役所

郡出納事務規程別冊ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

(別冊)

郡出納事務規程

第一章 總則

第一條 財産ヨリ生スル收入其他一切ノ收入トシ一切ノ經費ヲ歳出トシ歳入歳出ハ豫算ニ編入スヘシ

第二條 特別會計ニ屬スル歳入歳出ハ各別ニ豫算ヲ編製スヘシ

第三條 各年度ニ於テ決定シタル經費ヲ以テ他ノ年度ニ屬スヘキ經費ニ充ツルコトヲ得ス

第四條 歳入ノ誤納過納トナリタル金額ノ拂戻ハ總テ當該年度ノ收入科目ヨリ仕拂フヘシ

歳出ノ誤拂過渡トナリタル金額ノ返納ハ各之ヲ經費ノ定額ニ戻入スヘシ

出納閉鎖後ニ於ケル收支ハ總テ翌年度ニ於テ整理スヘシ

第五條 各年度豫算内ノ事業ハ其年度内ニ於テ之ヲ完結スヘシ繼續費ヲ設ケタル場合當該年度ノ支出額ニ對スル分亦同シ

第六條 歳入歳出ノ年度所屬ハ左ノ區分ニ據ル

歳入

一 納期ノ一定シタル收入ハ其納期末日ノ屬スル年度

二 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ其發シタル日ノ屬スル年度

三 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收サナシタル日ノ屬スル年度

歳出

一 仕拂期日ノ一定シタルモノハ其日ノ屬スル年度

二 諸給與ノ類ハ其支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度

三 補助、諸拂戻ノ類ハ其支出ノ決定ヲ達シタル日ノ屬スル年度

四 契約ニ基ク事業費物件代料ノ類ハ其契約又ハ購入ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但契約履行ノ數年ニ涉ルモノハ契約ニ定メタル仕拂期日ノ屬スル年度

五 前各項ノ區別ニ入ラサルモノハ總テ仕拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度

第七條 郡ニ郡金庫ヲ置キ現金ノ出納ヲ取扱ハシム

歳入歳出ノ寡少ナル郡ニ在テハ郡金庫ヲ置カサルコトヲ得此場合ニ於テハ本規程中郡金庫ノ職務ハ出納吏ニ於テ之ヲ取扱フヘキモノトス

第八條 現金ノ出納ハ毎翌年度五月三十一日限リ閉鎖スヘシ

第九條 歳入歳出ノ出納ニ關スル事務ハ毎年度後三ヶ月以内ニ完整スヘシ

第二章 豫算

明治三十二年六月 訓令

第十條 各年度ノ豫算ハ前年度十一月中ニ調製シ十二月中郡會ノ議定ニ付スルコトヲ要ス

第十一條 郡長ハ各年度ノ豫算確定シタルトキハ其騰本ヲ出納吏ニ交付スヘシ豫算ノ追加更正并ニ費目流用及豫備費ノ支出其他豫算ニ關係アル議決ヲナシタルトキ亦同シ

第三章 歳入

第十二條 郡ニ收納スヘキモノハ總テ納入ニ對シ納入告知書ヲ發スヘシ但上級經濟ヨリ下付ノ收入ハ此限ニアラス

第十三條 納入告知書發付後其金額ノ増減ヲ要スルトキハ更正命令ヲ發スヘシ

第十四條 納入告知書ニ據リ現金ヲ納付スルモノアルトキハ郡金庫ハ領收証ヲ交付スヘシ

第十五條 郡長ニ於テ特ニ定メタル場合ニ限り出納吏ニ於テ直接現金ノ收入ヲ爲スコトヲ得

第十六條 出納吏ニ於テ現金ヲ收入シタル時ハ科目金額事由氏名ヲ詳記シタル計算表ヲ調製シ毎

翌日之ヲ郡長ニ報告スヘシ

郡長ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタル時ハ納入告知書ヲ發シ出納吏ハ之ニ現金ヲ添ヘ郡金庫ニ拂込ムヘシ

第十七條 夫役現品ノ收入ハ場合ニヨリ土木工事監督者ノ報告ニ依リ出納吏ニ於テ收入ノ手續ヲナスコトヲ得

第四章 歳出

第十八條 支出命令ハ郡ニ對スル正常ナル債主又ハ其代理人ノ爲ニスルニアラサレハ之ヲ發スルコトヲ得ス

仕拂命令ハ一目(節アルモ)毎ニ之ヲ發シ請取人ノ氏名仕拂フヘキ金額年度科目番號等必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第十九條 出納吏ニ於テ支拂命令ヲ受ケタルトキハ支拂切符ヲ調製シ領收証書ト引換ニ債主又ハ其代理人ニ交付シ同時ニ案内仕拂切符ヲ郡金庫ニ交付スヘシ

送金ヲ要スル仕拂切符ハ郡金庫ニ交付シ假ニ其領收証書ヲ徴シ置キ追テ正當受取人ノ領收証書ト交換セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ同時ニ受取人ヘ別ニ送金通知書ヲ送付スヘシ

第二十條 仕拂切符ハ發付ノ日ヨリ十日以内ニ郡金庫ニ提出セサル時ハ其効力ヲ失フ

第二十一條 左ノ場合ニ於テ仕拂切符若クハ送金通知書ノ再發行ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ交付スヘシ

- 一 仕拂切符ト案内仕拂切符ト符合セサルトキ
- 二 仕拂切符汚損ノ爲メ案内仕拂切符ト照合シ難キトキ
- 三 仕拂切符又ハ送金通知書ヲ紛失シ郡金庫ノ未拂証明アルトキ
- 四 仕拂切符ノ効力ヲ失ヒタルトキ

前項ニヨリ再發行ヲ爲シタルトキハ之ヲ郡金庫ヘ通知シ據キノ仕拂切符又ハ送金通知書ヲ返納セシムヘシ

第二十二條 左ノ經費ハ概算拂渡ヲ爲スコトヲ得但旅費ハ第一概算拂渡金ノ精算ヲ了セサル内ニ第二ノ概算拂渡ヲ爲スコトヲ得ス

一 旅費

二 補助費

三 通信運搬費

四 訴訟入費

第二十三條 官報新聞紙圖書類等ニシテ豫約ヲ以テ購入スルモノハ前金拂トナスコトヲ得

第二十四條 契約ニ依リ工事ノ既成部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ内拂ヲナスコトヲ得此場合ニ於テハ領收証書ニ其開書ヲ添付スヘシ

第二十五條 經費ノ定額ニ戻入ヲ要スルモノアルトキハ第十二條第十四條ノ規定ヲ準用ス

第五章 決算

第二十六條 決算ハ豫算ト同一區分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明書ヲ添付シ毎翌年六月三十日迄ニ証書類ト共ニ之ヲ郡長ニ提出スヘシ

第二十七條 過年度ニ屬スル收入ハ雜收入トシテ整理スヘシ

第二十八條 過年度ニ屬スル支出并ニ諸拂戻ハ雜支出トシテ整理スヘシ

第六章 出納吏

第二十九條 出納吏ハ日々其出納ヲ帳簿ニ登記スヘシ

第三十條 出納吏ハ日々其取扱ヒタル收支ノ計算表ヲ調製シ毎翌日郡長ニ報告スヘシ

第三十一條 出納吏交替ヲ爲シタルトキハ在職中取扱ヒタル出納計算書ヲ調製シ一周間以内ニ事務受渡ヲ了シ後任者連署之ヲ郡長ニ提出スヘシ

第三十二條 出納吏死亡其他事故ニ依リ前條ノ出納計算書ヲ調製スルコト能ハサルトキハ他ノ官吏更員ニ命ジテ之ヲ調製提出セシムヘシ

第七章 出納検査

第三十三條 郡長ハ毎月例日ヲ定メ検査ヲナシ帳簿月末殘高ニ檢印スヘシ

第三十四條 前條ノ検査ハ左ノ事項ニ就キ之ヲ爲スヘシ

- 一 仕拂豫算額ニ超過スルコトナキヤ否
- 二 支出科目及所屬年度ヲ誤マルコトナキヤ否
- 三 豫算ヲ以テ定メラレタル目的ニ違フコトナキヤ否
- 四 收支命令ニ違フコトナキヤ否
- 五 各種帳簿ノ整否
- 六 收支命令書ノ整否
- 七 証憑書類ノ當否

八 物品出納ノ整否
 九 金品及有價証券ノ在高及保管ノ方法
 其他必要ト認ムル事項

第八章 雜則

第三十五條 物品ノ出納保管ニ關スル規定ハ明治二十八年五月當府訓令第八十六號ヲ準用ス
 第三十六條 工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル規定ハ當府ニ於テ別ニ之ヲ定ムル迄當分政府會計法第二十四條并ニ會計規則第六十七條乃至第八十三條ノ規定ヲ準用ス
 第三十七條 本規程ノ施行ニ關シ必要ナル細則ハ郡長ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ得
 第一號

財産收入原簿

番號	金額	事由	領收月日	納入住所氏名
一	金何圓	何月何日 何月何日	何月何日	住所 何某

告知
簿
印

第二號

備考

一本簿ハ科目毎ニ區分調製スヘシ
 一雜收入原簿モ本簿ノ例ニ依ル但授業料ノ徵收原簿ハ別式ニヨル

授業料徵集原簿

番號	授業料月額	事由	由	納入住所氏名
第何號	一金 何月何日領收	何年何月何日入學(何年何月何日退學)(何々ニヨリ半額)	住所 何某	

第三號

町村分賦額收入原簿

第四號

期別		納付金額	領收月日
第一期	金何圓		何月何日
第二期	金何圓		何月何日

何町村納

番號	賦課額	換算金額	事由	由	領收月日	賦課町村名
			夫役(現品)徵收原簿	何々工事(一工事毎ニ區分ス)		人夫何百人 何品何拾個
			夫役何人 (何品何個)	内納ヲナシタルトキ 本欄ニ由リ記入ス		何村

第五號

受拂金日計簿

年月日	摘要	憑憑 番號	受		拂		残	
			圓	分	圓	分	圓	分
明治何年何月何日	組合ヨリ引經金	1	100	00			100	00
	何々收入	2	50	00			150	00
	何々費仕拂	1			20	00	130	00
	何々工事請負保証金	3	10	00			140	00
	何々役所經費ヨリ繰替	4	100	00			240	00
	何々費收入	5	120	00			360	00
	何々費仕拂	2			240	00	120	00
	△何々役所經費繰替金返済	△8	△100	00			10	00

(印ハ朱書)

備考
 一 本簿ハ收入支出共日々ノ出納ヲ配帳整理スルモノトス
 一 豫算ニ關係ナキ雜部金ノ出納アルトキモ亦本簿ニ登記シ
 猶本簿ノ式ニヨリ總務井ニ金額類毎ニ口座ヲ設ケ別ニ整
 理スルモノトス